

# こくぐーニ下

赤とんぼ

文部科学省検定済教科書 38 光村 国語 214 小学校国語科用

こくぐーニ下 赤とんぼ

光村図書

光村図書

9784813803874

1924381000000

ISBN978-4-8138-0387-4  
C4381 Y00000E



光村図書

この教科書をつかう みなさんへ

ここでは、みんなでかんがえたい大切なことを  
たしかめることができます。読みとるときに  
は、かならずせんせいやおうちの方と いっ  
しょに行いましょう。

- ・タブレットなどをつかうときは
- ・かんせんしょうたいさく
- ・ぼうさい
- ・SDGs(エスディー・ジーズ)
- ・学校でつかう日本語



保護者の皆様へ  
この教科書は、これからの社会を生きる子どもたちが、言葉に出会う喜び  
や、人とつながる楽しさを実感しながら、確かな「言葉の力」を身につけ  
ることを願って編集したものです。ご家庭においても、子どもたちと語り  
合うきっかけとしてこの教科書をご活用ください。

- この教科書は、次のような配慮や工夫をしています。
- ・全てのページについて、次の観点から、専門家による校閲を行っています。  
カラーユニバーサルデザイン／特別支援教育／学習のユニバーサルデザイン／人権教育／外国人児童生徒等教育／防災教育
  - ・持続可能な開発目標（SDGs）に関連するテーマを幅広く取り上げています。
  - ・児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。
  - ・読書紹介や学習用語の解説などの小さな文字には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
  - ・環境に配慮した紙、植物油インキを使用しています。

UD  
FONT



教科書中には、「学校の新しい生活様式」を踏まえ、学習活動を設定したり、その様子を挿絵・写真で示したりしています。児童に、活動の様子や留意点を分かりやすく伝えるために、マスクの着用等を省略していますが、実際の活動に際しては、適切な感染症の予防にご配慮ください。

この教科書では、学習の参考となる動画などの資料を小  
社ウェブサイトにて用意し、その箇所には二次元コードを  
示しています。機種やインターネット環境等によっては  
アクセスできないことがあります。また、通信料が発生  
する場合があります。読み取れない場合は、下記の  
URL をご参照ください。  
[https://m-manabi.jp/06s/kokugo2\\_ge/](https://m-manabi.jp/06s/kokugo2_ge/)



この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、  
税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。

二年  
組



こくご

二下 にげ

赤 あかとんぼ



つくつくほうしが

なくころになると、

あの ゆうびんのマークが、

きっと 知らせにきます。

金色 きんいろの空 そらから

もう あきですよ……って。







国語の学びを見わたそう ..... 5

自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう  
お手紙 ..... 13



主語と述語に 気をつけよう「ことば」 ..... 29

かん字の読み方「ことば」 ..... 31



みんなで話をつなげよう ..... 36

そうだんにのってください ..... 36

せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書こう  
紙コップ花火の作り方 ..... 41

おもちゃの作り方をせつめいしよう ..... 48

にたいみのことば、はんたいのいみのことば「ことば」 ..... 52

せかい一の話 きたしうすけ「聞いて楽しもう」 ..... 54



思いうかべたことをもとに、お話をしようかいしよう  
みきのたからもの ..... 57



組み立てを考えて、お話を書こう  
お話のさくしやになろう ..... 74



だいじなことばに 気をつけて読み、分かったことを知らせよう  
ロボット ..... 87



ことばについて考えよう  
ようすをあらわすことば ..... 98

詩を作って、読み合おう  
見たこと、かんじたこと ..... 102

カンジーはかせの大はつめい「ことば」 ..... 104







思いをつたえる手紙を書こう

すてきなところをつたえよう……………106

読んで、かんじたことをつたえ合おう

スーホの白い馬……………111

組み立てを考えて、はっぴようしよう

楽しかったよ、二年生……………132

二年生をふりかえって……………136

きせつのことば 秋 34 冬 80 かん字のひろば ④ 56 ⑤ 131

ひろく がくしゅうを広げよう

「たいせつ」のまとめ……………138

おちば（お話）……………142

せかい一の話……………150

本のせかいを広げよう……………156

これまでにならった かん字……………158

この本でならう かん字……………161

つたえ合うためのことば……………163

がくしゅうに用いることば……………164

ことばのたからばこ……………165

図をつかって考えよう……………167

# 国語の学びを見わたそう

人と話を しているときや、本を 読んで

いるときに、「すてきだな」とかんじたことは  
ありませんか。すてきなことばに出会ったら、  
じぶんでもつかえるようになると いいですね。

もっと、

ことばについて

学んでいこう。



この本では、つぎのしるしが  
つかわれています。



大切なことを 書いています。  
たしかめましょう。



国語のがくしゅうで よく  
つかわれることばです。



がくしゅうにかんけいのある  
ページを書いています。

文字やことばのしるし

新しくがくしゅうするかん字。

読み方が新しいかん字。

新しくがくしゅうするかたかな。



このしるしが あるところには、がく  
しゅうのたすけとなる しりょうが  
あります。読みとるときには、かなら  
ず、先生や おうちの方といっしょに  
行いましょう。



がくしゅうや生活<sup>せい かつ</sup>にいかす



国語<sup>こくご</sup>でがくしゅうしたことを、  
べつのときに いかしたことはありますか。



がくしゅうや生活<sup>せい かつ</sup>の中<sup>なか</sup>で



ことばや、ことばのつかい方<sup>かた</sup>について、  
「もっと——したい。」と思<sup>おも</sup>ったことは ありますか。



ふりかえる



ふりかえろう



よ 読む



か 書く



● みんなでよく考<sup>かん</sup>える

「みんなの考<sup>かん</sup>えを教<sup>おし</sup>えて。」  
「うまくつたわったかな。」  
「もう一回<sup>いっかい</sup>、やってみよう。」



たいせつ

「こうすればいいんだ。」



はな 話す・き 聞く



● ひどりでじつくり考<sup>かん</sup>える

「だいじなことを  
たしかめよう。」

みとお 見通しをもつ

といをもつ



もくひょう



といをもとう

「こんなことが楽<sup>たの</sup>しみ。」  
「どうしたらできるかな。」  
「どうして——なのかな。」



# 二年生で学ぶこと



考えを出し合い、話をつなげる

そうだんにのつてくたさい 36

組み立てを考えて、話す

楽しかったよ、二年生 132

## 話す・聞く

上

ことばの じゅんびうんどう

じゅんばんに ならぼう

だいじな ことを おとさずに 聞く

ともだちは どこかな

しつもんをして、あいての考えを引き出す

あったらいいな、こんなもの

あいてに正しくつたわるように 話す

ことばでみちあんない

「そうだんにのつてくたさい」では、  
どんなことをするのかな。



# 二年上までに学んだこと

きめよう  
あつめよう

● すきなことや、したことなどから、話したいこ  
とを、くわしく思い出す。

じゅんび  
しょう

● なについて話すかを、はじめに言う。  
● 話すじゅんじよを考え、だいじなことはくわ  
しく言う。

話そう・聞く

話しあう

聞く

話す

● 聞きやすい大きさの声と はやさて話す。  
● 思ったことと、そのわけを言う。  
● 聞いてだいじだと思つたことを、メモする。  
● あいての考えを くわしく聞くために、  
だいじなことを考えて、しつもんする。  
● 友だちの言つたことを たしかめたり、  
分からないことを きいたりして、そ  
う だんする。

つなげよう

● 話したり、聞いたり、話しあつたりして、気が  
ついたことをつたえあう。

## 書く



じゅんじよが分かるように書く

おもちゃの作り方をせつめいしよう 48

組み立てを考えて、お話を書く

お話のさくしやになろう 74

書いたもののよいところを見つける

見たこと、かんじたこと 102

思いがつつたわるように書く

すてきなところをつたえよう 106

上

たのしく かこう

絵を見て かこう

日記に書くこと

日記を書くこと

かんさつした ことを  
書く

かんさつ名人になろう

組み立てを 考えて 書く

こんなもの、見つけたよ

書いた文しよを見直す

書いたら、見直そう

「はじめ」「中」「おわり」は、  
いろいろなときにつかえそう。



きめよう  
あつめよう

● したこと、見たこと、見つけたもの、言つたこと、  
聞いたこと、かんさつして分かつたこと、思つ  
たことなどから、書きたいことを考える。

組み立てよう

● なにかを知らせる文しよは、つぎのように組  
み立てる。  
● はじめ——知らせたいこと  
● 中——くわしいせつめい  
● おわり——まとめのことば

書こう

● 文しよを書いたら、声に出して 読むなどし  
て、見直す。  
● 丸点、かぎや、文字のまちがいがいかを  
たしかめる。

つなげよう

● 友だちが書いた文しよを 読んで、「いいな」  
と思つたことを つたえる。





## せつめいする文しよう

だいじなことばや文を見つける  
紙コップ花火の作り方 41

読んで、分かったことや思ったことを  
つたえ合う

ロボット 87

せつめいする 文しようを 読む  
たんぼぼの ちえ

だいじなじようほうを読みとる  
みの回りのものを読もう

読んで、じぶんの考えをもつ  
どうぶつ園のじゆうい ひしや

「ロボット」を早く読みたいな。  
ロボットについて、なにがせつめ  
いされているのかな。



## お話

とうじようじんぶつと自分をくらべて、  
かんそうをもつ

お手紙 13

じんぶつのようすを思いうかべる  
あらすじ

みきのたからもの 57

読んで、かんじたことをつたえ合う

スーホの白い馬 111

詩  
ねこのこ／おとのはなびら／はんたいことば 82

## 上

どんな おはなしかを  
たしかめる

ふきのとう

お話の ようすを  
思いうかべる

スイミー

雨のうた

## 二年上までに学んだこと

### せつめいする 文しよう

だいめいや絵から、その文しように書かれて  
いることをたしかめる。  
じゆんじよが分かるこ  
とばや わけに気をつ  
けて、くわしく読む。

### お話・詩

お話には、いくつかの  
ばめんがある。

とうじようじんぶつを  
たしかめる。

つぎのようなことを  
見つける。

したことや、言った  
ことが 分かるこ  
とば

「いつ」や「どこ」が  
分かることば

それぞれのばめんで  
おこったできごとをた  
しかめる。

### とらえよう

「ふきのとう」で、  
読むときに 気をつ  
けるといい ことば  
を学んだね。



### せつめいする 文しよう

だいじなことばを 見  
つけながら読む。

みの回りには、じよう  
ほうのつたえ方を く  
ふうしている ものが  
ある。

ことばや絵などのつか  
い方に 気をつけて、  
だいじなことを読み  
とる。

### お話・詩

絵を見ながら、お話を  
出てくる人が、したこ  
とや 言ったことを、  
思いうかべる。

たとえをあらわすこと  
ばなどに 気をつけて、  
ばめんやじんぶつのよ  
うすを 思いうかべる。

### ふかめよう

### まとめよう

くらべて読んで、考える。  
読んで分かったことを、じぶんのことや 知って  
いることと くらべて考える。

### ひろげよう

かんじたことと そのわけを、友だちと話して、  
お話を楽しくむ。





## 読む

自分とくらべて読み、  
とうじょうじんぶつに手紙を書こう

これまでの  
がくしゅう



どんな おはなしかを たしかめる  
(ふきのとう).....



お話の ようすを 思いうかべる  
(スイミー).....

上 80 ページ

上 32 ページ

## お手紙

「がまくん」の家に、「かえるくん」が  
やって来ました。これから、ふたりの間  
に、どんなことがおこるのでしょうか。

## ことば

### ことばのつかい方

主語と述語に 気をつけよう	29
かん字の読み方	31
にたいみのことば、 はんたいのいみの ことば	52
かたかなで書く ことば	84
ことばを楽しもう	86
ようすをあらわす ことば	98

カンジーはかせの  
大はつめい  
かん字の広場 ④・⑤ 104

### 上

- ・同じ ぶぶんを  
もつ かん字
- ・かたかなのひろば
- ・ことばあそびを  
しよう
- ・なかなのことばと  
かん字
- ・かん字のひろば  
①②③

### 上

- ・いなばの 白うさぎ
- ・きせつの ことば  
春・夏



じょうほう



読む

### 上

- ・じゅんじよ
- ・メモをとる とき

### 上

- ・図書館たんけん
- ・お気に入りの本を  
しようかいしよう
- ・ミリーの  
すてきなぼうし



## 一年生で学んだこと

### ことばのつかい方

- ・口のあけ方
- ・文字(ひらがな、かたかな、かん字)
- ・「。」がつく文字の あることば
- ・「っ」のあることば
- ・のばす音のある ことば
- ・「や」「ゆ」「よ」のあることば
- ・「は」「を」「へ」のつかい方
- ・かぎ(「」、丸(「」)のつかい方
- ・ものの名前(ものをあらわすことば)
- ・うけつがれてきたことば
- ・むかし話を聞いて楽しむ
- ・ことばあそび
- ・学校図書館のきまり
- ・読んだ本をしようかいする

# お手紙<sup>てがみ</sup>

アーノルド・ローベル さく・絵

みきたく

やく

がまくんは、げんかんの前<sup>まえ</sup>に すわって  
いました。

かえるくんがやって来て、言<sup>い</sup>いました。

「どうしたんだい、がまがえるくん。きみ、  
かなしそうだね。」

「うん、そうなんだ。」

5



がまくんが言<sup>い</sup>いました。

「今<sup>いま</sup>、一日<sup>いちにち</sup>のうちの かなしい時<sup>とき</sup>なんだ。つまり、

お手紙<sup>てがみ</sup>をまつ時間<sup>じかん</sup>なんだ。そうすると、いつもぼく、

とても ふしあわせな気<sup>き</sup>もちに なるんだよ。」

「そりゃ、どういうわけ。」

かえるくんがたずねました。

「だって、ぼく、お手紙<sup>てがみ</sup>もらったこと ないんだもの。」  
がまくんが言<sup>い</sup>いました。

「いちどもかい。」

かえるくんがたずねました。

10

5

○ 自分<sup>じぶん</sup>

○ 時<sup>とき</sup>

● 時間<sup>じかん</sup>





「ああ。いちども。」  
 がまくんが言いました。  
 「だれも、ぼくに お手紙なんか  
 くれたことがないんだ。毎日、ぼくの  
 ゆうびんうけは、空っぽさ。お手紙  
 を まっているときに かなしいの  
 は、そのためなのさ。」  
 ふたりとも、かなしい気分で、げん  
 かの前に こしを下ろしていました。  
 すると、かえるくんが言いました。

10

5

「ぼく、もう家へ帰らなくっちゃ、  
 がまくん。しなくちやいけないこと  
 が あるんだ。」  
 かえるくんは、大いそぎで家へ

帰りました。えんぴつと紙を見つ  
 けました。紙に何か書きました。  
 紙をふうとうに入れました。ふう  
 とうに こう書きました。

「がまがえるくんへ」  
 かえるくんは、家からとび出し

10

5

○何に  
 ○帰る





ました。知り合<sup>あ</sup>いのかたつむりくんに会<sup>あ</sup>いました。

「かたつむりくん。」

かえるくんが言<sup>い</sup>いました。

「おねが<sup>て</sup>い<sup>が</sup>み<sup>み</sup>けど、このお手紙<sup>てがみ</sup>を がま<sup>く</sup>んの家<sup>いえ</sup>へ も<sup>っ</sup>て<sup>い</sup>っ<sup>て</sup>、ゆうびん<sup>うけ</sup>に 入<sup>い</sup>れ<sup>て</sup>き<sup>て</sup>く<sup>れ</sup>な<sup>い</sup>か<sup>い</sup>。」

「ま<sup>か</sup>せ<sup>て</sup>く<sup>れ</sup>よ。」

かたつむりくんが言<sup>い</sup>いました。

「すぐ<sup>や</sup>る<sup>ぜ</sup>。」

それから、かえるくんは、がま<sup>く</sup>んの家<sup>いえ</sup>へもど<sup>り</sup>ま<sup>し</sup>た。

知<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>合<sup>あ</sup>い

がま<sup>く</sup>んは、ベッ<sup>ど</sup>で お昼<sup>ひる</sup>ねを<sup>し</sup>て<sup>い</sup>ま<sup>し</sup>た。

「がま<sup>く</sup>ん。」

かえるくんが言<sup>い</sup>いま<sup>し</sup>た。

「き<sup>み</sup>、お<sup>き</sup>て<sup>さ</sup>、お<sup>て</sup>手<sup>が</sup>紙<sup>み</sup>が<sup>く</sup>来<sup>る</sup>の<sup>を</sup>、も<sup>う</sup>

ち<sup>よ</sup>っ<sup>と</sup> ま<sup>っ</sup>て<sup>み</sup>た<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>と 思<sup>おも</sup>う<sup>な</sup>。」

「い<sup>や</sup>だ<sup>よ</sup>。」

がま<sup>く</sup>んが言<sup>い</sup>いま<sup>し</sup>た。

「ぼ<sup>く</sup>、も<sup>う</sup> ま<sup>っ</sup>て<sup>い</sup>る<sup>の</sup>、あ<sup>き</sup>あ<sup>き</sup>し<sup>た</sup>よ。」





かえるくんは、まどから ゆうびんうけを見<sup>み</sup>ました。  
かたつむりくんは、まだ やって来<sup>き</sup>ません。

「がまくん。」

かえるくんが言<sup>い</sup>いました。

「ひょっとして、だれかが、きみに

お手紙<sup>てがみ</sup>をくれるかもしれないだろう。」

「そんなこと、あるものかい。」

がまくんが言<sup>い</sup>いました。

「ぼくに お手紙<sup>てがみ</sup>をくれる人<sup>ひと</sup>なんて、

いるとは思<sup>おも</sup>えないよ。」

10



かえるくんは、まどから のぞきました。  
かたつむりくんは、まだ やって来<sup>き</sup>ません。  
「でもね、がまくん。」  
かえるくんが言<sup>い</sup>いました。

「きょうは、だれかが、きみに お手紙<sup>てがみ</sup>くれるかも  
しれないよ。」

5

「ばからしいこと、言<sup>い</sup>うなよ。」  
がまくんが言<sup>い</sup>いました。

「今<sup>いま</sup>まで、だれも、お手紙<sup>てがみ</sup>くれなかったんだぜ。きよ  
うだって同<sup>おな</sup>じだろうよ。」

10

かえるくんは、まどからのぞきました。

かたつむりくんは、まだ やって来ません。

「かえるくん、どうして、きみ、ずっと まどの外を

見ているの。」

がまくんがたずねました。

「だって、今、ぼく、お手紙を

まっているんだもの。」

かえるくんが言いました。

「でも、来やしないよ。」

がまくんが言いました。

10

5



「きつと来るよ。」

かえるくんが言いました。

「だって、ぼくが、きみに お手紙出したんだもの。」

「きみが。」

がまくんが言いました。

「お手紙に、なんて書いたの。」

かえるくんが言いました。

「ぼくは、こう書いたんだ。『親愛なる がまがえる

くん。ぼくは、きみが ぼくの親友であることを、

うれしく思っています。きみの親友、かえる。』」

10

5

• 親愛  
• 親友





「ああ。」

がまくんが言いました。

「とても いいお手紙だ。」

それから、ふたりは、げん

かんに出て、お手紙の来るの

を まっていました。

ふたりとも、とても しあ

わせな気もちで、そこにす

わっていました。

長いこと まっていました。

10

四日<sup>よっか</sup>たって、かたつむりく  
んが、がまくんの家<sup>いえ</sup>につしま  
した。

そして、かえるくん

からのお手紙<sup>てがみ</sup>を、がま

5

くにわたしました。

お手紙<sup>てがみ</sup>をもらって、

がまくんは、とても

よろこびました。



アーノルド＝  
ローベルさんは、  
「ふくろうくん」  
「どろんこ こぶ  
た」なども書いて  
います。

見通しをもとう



といをもとう

お話を読んで、あなたが、「自分だったらこうするだろうな。」と思うことはありましたか。そう思ったのは、どうしてですか。



もくひょう

とうじょうじんぶつのようすを思い浮かべながら読み、かんじたことを手紙に書く。

- ・とうじょうじんぶつがしたことをあらわすことばに気をつける。
- ・自分とくらべて読み、かんそうをもつ。

とらえよう

○だれが、どこで、何をしたり、言ったりしたかをたしかめましょう。

ふかめよう

○20〜22ページで、「かえるくん」が、なんどもまどから外を見た ① わけを考えましょう。

○「がまくん」は、どのように、「ああ」「とても

いいお手紙だ。」と言ったのでしよう。

○手紙をまっている、「がまくん」と「かえるくん」は、どんなことを考えていたでしよう。

まとめよう

○じんぶつと自分をくらべましょう。そして、かんじたことを、「がまくん」と「かえるくん」のどちらかに、手紙でつたえましょう。

ひろげよう

○手紙を友だちと読み合い、「いいな。」と思ったところをつたえ合いましょう。



ふりかえろう

知る 読む つなぐ

どんなことばから、とうじょうじんぶつのようすを思いうかべましたか。とうじょうじんぶつと自分の ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳





たいせつ

とうじょうじんぶつと自分を  
くらべて、かんそうをもつ

○ じんぶつがしたことを あらわすこと  
ばかり、ようすを思いうかべる。

○ 自分だったらどうするか、どう思うか  
を 考えながら読む。

5



いかそう

じんぶつと自分の についてとこ  
ろや ちがうところを 考えながら、  
お話を 読みましょう。

142 ページに、「がまくん」と「かえるくん」が 出て

10

くる、「おちば」という お話があります。ふたりは、  
どんなことをするのでしょうか。

自 自 自 自 自 自

自分

時 時 時 時 時 時 時

帰 帰 帰 帰 帰 帰 帰  
何 何 何 何 何 何 何

合 合 合 合 合 合 合  
知 知 知 知 知 知 知



この本、読もう

「がまくん」と「かえるくん」が 出てくるお話です。

ふたりは ともだち

ふたりは いっしょ



ふたりは いつも

ふたりは きょうも



ことば

主語と述語に 気をつけよう



といをもとう

下の絵で、男の子は、どのように  
言えよかったのでしょうか。



• 何

だれが

かえるくんが 言う。

何が

お手紙が 来る。

だれは

がまくんは しあわせだ。

何は

これは お手紙だ。

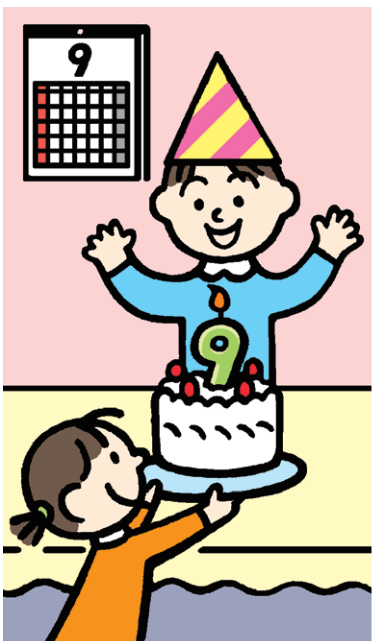
5

主語

だれが(は)  
何が(は)

述語

どうする  
どんなだ  
何だ



わたしのおにいさんは、九月九日の日曜日に、九さいになりました。

つぎの文を、声に出して読んでみましょう。



## かん字の読み方

5

一つのかん字でも、読み方は一つとはかぎりません。ことばによって、ちがう読み方をすることがあります。

九 九月 九日 九さい  
日 九日 日曜日 日曜日

文の中には、「九」と「日」が三回ずつ出てきました。それぞれ、どんな読み方をしましたか。

5

主語は、いつも文のはじめにあるとは かぎりません。  
• お手紙をもらって、がまくんは、とても よろこびました。

1 つぎの文の中から、主語と述語を見つけましょう。

5

里 里里里里里 里も  
週 週週週週週週 今週  
番 番番番番番番 当番

画 画画画画画 画用紙  
用 用用用用用 用  
角 角角角角角角 三角

交 交交交交交 交通  
明 明明明明明 明るい  
星 星星星星星 星



話すときや、文を書くときには、主語と述語が、あいてにきちんとつたわるようにしましょう。

162 ページ

• 里いもが とても おいしい。  
• たなかさんは 今週の 当番だ。  
• 兄が 画用紙を 三角に おる。  
• 先生が 交通あんぜんの 大切さを 話す。  
• 小さな 子どもが 風車をもつ。  
• 明るく 光る 星が きれいだ。

5

10

里いも 今週 当番 画用紙 三角 風車 交通 明るい 星



たくさんよの読み方かたがある  
かん字じです。  
読よんでみましょう。

上

じょう  
うえ  
うわ  
かみ  
あげる・あがる  
のぼる

- 屋上から、東京えきが見える。  
おくじょう　とうきょう　み
- たなの上に、金魚ばちをおく。  
うわ　うえ　きんぎょ
- 上ばきをぬぐ。  
かみ　かわ
- 川上で、つりをする。  
かわ　かみ
- 空きはこをつみ上げる。  
あ　あ
- 古いお寺のかいだんを　ふる　てら　のぼ　上る。

下

か  
げ  
した  
しも  
さげる・さがる  
くだる・くだす・くださる  
おろす・おりる

- ろう下に西日にしびがさす。
- 夜よが明あけてから、下山げざんする。
- 木きの下で、車くるまが止とまる。
- 川下かわしもは、ながれがおそい。
- 頭あたまを下さげる。
- さか道みちを下くだると、野原のほらがある。
- ふみ台だいから下おりる。

ふみ台 野原 さか道 止まる 下山 明ける 夜よ 西日 お寺 古い 空きばこ 金魚 東京

「<sup>あ</sup>上げる」「<sup>のぼ</sup>上る」「<sup>さ</sup>下げる」「<sup>くだ</sup>下る」  
<sup>お</sup>下ろす」の <sup>せん</sup>線のような、かん字  
<sup>した</sup>の下に つづけて書くかなを、おく  
 りがなといいます。おくりがなは、  
 かん字の読み方 <sup>かた</sup>をはつきりさせる  
 はたらきがあります。かん字 <sup>じ</sup>を <sup>ただ</sup>正  
 しく読む <sup>よ</sup>ためには、おくりがなに  
 きをつけることが <sup>たいせつ</sup>大切です。

## 1

線のことばを、おくりがなに  
気をつけて読みましょう。

- 草くさが生える。
- 弟おとうとが生まれる。
- 手紙てがみを出す。
- 家の外そとに出る。
- 新しい船ふねが、みなとに入る。
- お米こめをふくろに入れる。

お米 (こめ) 船 (ふね)

162 ページ

5

[illegible]

きせつの  
ことば 3



秋<sup>あき</sup>が  
い  
つ  
ぱ  
い

赤<sup>あか</sup>とんぼ



ひよどり



すすき



こおろぎ

ねこじやらし



すず虫<sup>むし</sup>



いちよう  
ききよう



もみじ



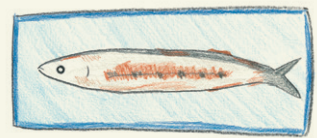
コスモス



かき



どんなものを 見たときに、「秋<sup>あき</sup>だなあ。」  
と坎じますか。カードに書<sup>か</sup>きましよう。



さんま  
きのう、家<sup>いえ</sup>で、  
さんまを食<sup>た</sup>べました。  
おにいさんが、  
「秋<sup>あき</sup>はさんまがおい  
しいきせつだよ。」  
と言<sup>い</sup>っていました。

5

どんぐり  
生活<sup>せいかつ</sup>の時間<sup>じかん</sup>に、  
どんぐりをたくさ  
んひろいました。  
こまをつくって、  
みんなであそびた  
いです。



10

15

秋<sup>あき</sup>



やま

かんざわとしこ

ゆうべの あめが  
すっきり はれて  
やまは ごきげん  
あかい きいろい  
もみじきて  
くもを だっこして  
すわってる

5



秋

秋秋秋秋秋秋秋  
秋<sup>あき</sup>





# そうだんにのってください

おおかわさんのクラスでは、グループで友だちのそうだんごとを聞いて、話し合います。みなさんも、話し合ってみましょう。



## といをもとう

友だちとそうだんして、よかったことはありますか。友だちのそうだんごとについて話し合うときには、何に気を付けるとよいでしょうか。



## もくひょう

友だちの言ったことにつなげながら、そうだんごとについて話し合おう。

- 友だちと自分の考えをくらべる。
- 友だちの話をよく聞いて、それについて考えを言ったり、しつもんしたりする。

## ① わだいをきめよう。

がくしゅうや学校生活のことで、友だちにそうだんしてみたいことを考えましょう。



町たんけんで、パンやさんに行くことになった。パンやさんに、何をきいたらいいかな。

読書の時間に読む本が、なかなかきめられない。ほかの人はどうしているのか、きいてみたい。



## ● たしかめよう

「二年上までに学んだこと」……… 8 ページ

## ● 見通しをもとう

① きめようあつめよう  
わだいをきめる。

② じゅんびしよう  
話し合いのすめ方をたしかめる。

③ そうこう  
グループで話し合う。

④ つなげよう  
話し合ってよかったことをつたえ合う。

## ● ふりかえろう

## ○ わだいを考えるときは

つぎのようなことから、そうだんしたいことを考え、わだいをはつきりさせましょう。

- 国語や、ほかの教科ですること
- 休み時間のこと
- そうじのこと など

## 🌱 わだい

話などのざいりょうや、中心となることから。

📖 164 ページ

## ② 話し合いのすすめ方をたしかめよう。

そうだんする人が、話し合いをすすめます。どのように話し合いをすすめるとよいか、たしかめましょう。

## ③ グループで話し合おう。

じゅんばんに そうだんする人になって、話し合いましょう。

話し合うときに、どんなことに 気をつければよいかを 考えましょう。

わたしは、パンのしゅるいのことを きこうと 思っています。ほかに、どんなことをきいたら、パンやさんのことが くわしく分かるでしょうか。



ぼくは、何時からはたらいているかを きくといいと思います。朝、できたてのパンが ならんでいるのを見て、いつ作っているのかなと 思ったからです。

何時からはたらいているかを きくのですね。あおきさんは、朝、何時ごろに見たのですか。



わたしも、はたらいている時間が 知りたいです。でも、はたらきはじめる時間だけでなく、――。

わたしは、パンやさんが はたらいている時間や、パンやさんになると 思ったわけを きこうと思います。どうしてかという、――。



## 話し合いをすすめるときは

- ・はじめに、わだいをたしかめる。
- ・ひとりずつ、じゅんばんに 考えを出してもらい、話をつなげていく。
- ・さいごに、どうすることに したのかを言う。

話し合いのれいを見てもいい。



## みんなで話し合うときは

- ☐ 考えと、その理由を言う。
- ☐ 友だちの話を、さいごまで聞く。
- ☐ 自分の考えと同じだったり、いい考えだと思ったら、そのことを みんなにつたえる。

☐ くわしく知りたいことを しつもんする。

ほかに、だいじだと思ったことはありますか。

## 話しをつなげるときの ことば

〈考えをつけくわえる〉

- ・――さんが、――と言っていたことについて、わたしは、――。
- ・――さんの話につけ足します。
- 〈しつもんする〉
- ・どうして――ですか。
- ・それは、――ということですか。

理由 作る



# 4 話し合ってよかったことを つたえ合おう。

話し合ってよかったと思ったのは、どんな  
ことですか。友だちの話し方で、「いいな」  
と思ったところも つたえましょう。



作 作 作 作 作 作 作 作 作 作

作 作 作 作 作 作 作 作 作 作

理 理 理 理 理 理 理 理 理 理



たいせつ

考えを出し合い、話をつなげる

- わだいをたしかめ、自分の考えを言う。
- 友だちの考えと 自分の考えの、同じこ  
ろや ちがうところを見つける。
- 友だちの考えを聞いて 思ったことを話  
したり、しつもんしたりする。



いかそう

話し合うときには、どのようにして  
話をつなげていくか、考えましょう。



ふりかえろう

知る  
話す・聞く  
つなぐ

友だちの考えと 自分の考えは、どんなところが同じでしたか。  
どんなことに 気をつけて、友だちと話をつなげましたか。  
これから、話し合うときには、気をつけたいですか。



書く／読む

せつめいのしかたに 気をつけて読み、  
それをいかして書く

これまでの  
がくしゅう



せつめいする 文しようにを 読む



組み立てを 考えて 書く

(こんな もの、見つけたよ) ……

上 54 ページ



紙コップ花火の作り方

おもちゃの作り方

せつめいしよう

紙コップ花火は、どのように作るの  
でしょうか。せつめいを読んで、作っ  
てみましょう。そして、あなたも、おも  
ちゃの作り方を せつめいしてしまし  
ょう。

# 紙コップ花火の作り方

まるばやしさわこ

紙コップから、きれいな花火が  
出てくる、紙コップ花火という  
おもちゃがあります。三つのざい  
りょうで、かんたんに行ける、紙  
コップ花火の作り方をせつめいし  
ます。



紙コップ花火で  
あそぶようす



〈ざいりょうとどうぐ〉

- ・紙コップ一こ ・わりばし一ぜん
- ・紙(教科書よりも 少し大きなもの)一まい
- ・色えんぴつ ・はさみ ・ものさし
- ・のり ・セロハンテープ ・えんぴつ

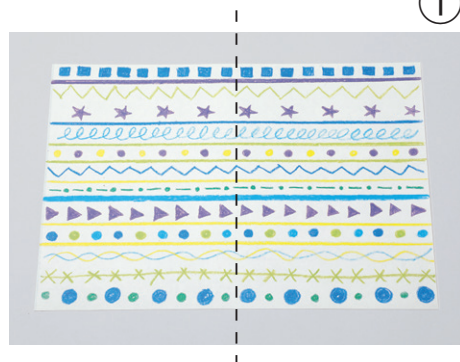
〈作り方〉

まず、花火のぶぶんになる 紙をじゅんびし  
ます。紙をよこむきにおいて、色えんぴつで、  
いろいろな線やもようを かきましよう。たく  
さんの色をつかうと、きれいな花火になります。  
かきおわったら、紙を半分に切り分けましよう。

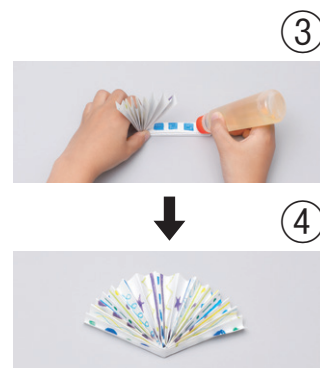
紙コップは205ミリ  
リットル、紙はA  
4サイズのコピー  
用紙を よういす  
ると、作りやすい。

少し

①







つぎに、花火のぶぶんを作ります。半分に切った紙を、一センチメートルのはばで、手前からおります。このとき、谷おり、山おりのじゆんに、くりかえしておりました。はばが細すぎると、花火がうまくひらかないので、気をつけましょう。さいごまでおると、細い長方形になります。それを、長さが半分になるようにおります。かさなるところを、のりでつけて、しゃしん④のような形にしましょう。もう一まいの紙も、同じ形にします。二つできたら、わりばしの太いほうの先に、のりでつけます。わりばしをはさむようにして、つけましょう。

10

5

谷おり

細い  
長方形

内がわ

まるばやしさん  
こさんは、楽しい  
工作を、たくさん  
作っている人です。

それから、花火のぶぶんを、紙コップに入れます。紙コップをさかさまにおき、まん中にえんぴつをさして、あなを空けます。そのあなに、わりばしの細いほうを、紙コップの内がわからさしこみます。

さいごに、花火のぶぶんと紙コップをくっつけます。セロハンテープで、花火のぶぶんのはしを紙コップの外がわりにとめます。はしの一まいだけを とめるようにしましょう。これで、紙コップ花火のできあがりです。

## 〈楽しみ方〉

紙コップをもって、わりばしを上におすと、花火がひらき、下に引くと、花火がとじます。

10

5

見通しをもとう



といをもとう

紙コップ花火を作るために、あなたは、どのことばに  
気をつけて、文しょうを読むと いいと思いますか。



もくひょう

だいじなことばや文を さがしながら読み、  
せつめいのくふうを考えて、はっぴようし  
よう。

- ・じゅんじょが分かることばに 気をつ  
ける。
- ・だいじなことが 書かれている文が  
どれかを考える。

とらえよう

○文しょうが、どんなまとまりに 分かれてい  
るかをはかめましょう。

○文しょうをよく読み、しやしんを見ながら、  
紙コップ花火を作ってみましょう。

○紙コップ花火を作るときに、どんなことば

ふかめよう

や文に 気をつけましたか。友だちと話しま  
しょう。①

○それぞれのしやしんは、文しょうのどのぶ  
んと あわせて読むとよいでしょうか。

○分かりやすくせつめいするために、ひっし  
や、どんなくふうを していますか。②

○あなたがおもちゃの作り方を せつめいする  
ときに つかってみたくふうは、何ですか。

まとめよう

ひろげよう

○ひっしやの せつめいのくふうについて、考  
えたことをつたえ合ひましょう。友だちの話を  
聞いて、「いいな。」と 思ったものがあれば、  
書いておきましょう。



たいせつ

だいじなことばや文を  
見つける

- 「まず」「つぎに」など、じゅんじょ  
が分かることばに 気をつける。
- しやしんが、どのことばや文を あ  
らわしているかを考える。

② せつめいのくふうを見つける

- つぎのように思ったところに 気をつける  
と、くふうが見つかります。
- ・こんなじゅんじょで 書かれていたから、  
分かりやすかった。
- ・こんなことが 書かれていたから、分か  
りやすかった。
- ・こんなことばやしやしんが つかわれてい  
たから、分かりやすかった。

- ① ことば
- 「まず」「つぎに」などの  
ことばに気をつけたよ。
- 「先」「まん中」「はし」な  
どのことばがないと、作る  
ときにこまるね。







# おもちゃの作り方

## せつめいしよう

これまでに、どんなおもちゃを作ったことがありますか。  
おもちゃの作り方を書いて、友だちと読み合いましょう。



### といをもとう

友だちに、どのおもちゃの作り方を ったえた  
いですか。それを作るときには、どんなことに  
気をつけるとういでしょう。



### もくひょう

「紙コップ花火の作り方」で見つけた せつめ  
いのくふうをつかって、おもちゃの作り方を 分  
かりやすくせつめいしよう。

- せつめいするじゅんじよに 気をつ  
ける。
- じゅんじよが分かることばや、絵な  
どをつかって書く。



### ① せつめいするおもちゃをきめよう。

作り方をせつめいするおもちゃを きめて、ひつよう  
なざいりようとうぐを たしかめましよう。

### ② せつめいのじゅんじよを考えよう。

文しよぜんたいの組み立てと、どんなじゅんじよで  
せつめいするかを考えましよう。

### ③ せつめいする文しよを書こう。

おもちゃの作り方が 分かりやすくったわるように、  
文しよを書きましよう。

▼ 50ページのれいを読んで、「くふうしているな。」と思う  
ところを見つけてましよう。

### ○ 組み立てを考えるときは

「紙コップ花火の作り方」  
のように、三つのまとまり  
で書くとういかな。

### ✓ 作り方をせつめいするときは

- 「まず」「つぎに」などの、じゅん  
じよが分かることばを つかう。
- それぞれの文が、何について せ  
つめいしているかが、分かるよう  
に書く。
- 絵やしやしんを入れる。

ほかに、だいじだと思つた  
ことはありますか。





知る

読む

書く

つなぐ

じゅんじよが分かることには、どんなものがありましたか。

どんなことばや文に  
 気をつけて、「紙コップ花火の作り方」  
 を読みましたか。

作り方をせつめいするときに、どんなことに気をつけましたか。

せつめいを読んだり、書いたりするときには、どんなことに気をつけたいですか。

少 少 少 少 少<sup>すこ</sup>し  
谷 谷 谷 谷 谷 谷 谷<sup>たに</sup>おり

糸  
細  
細  
細  
細  
細  
細  
細  
細  
細  
ほそい

けん玉だまの作り方つくかたしもだ  
かほ

まつぼっくりをつかった、けん玉だまの作り方つくかたをせつめいします。

へざいりょうとうぐ

- まつぽっくり 一つ ひとつ
- 毛糸 けいと (つくえのよこの長さ)
- 紙コップ 二つ ふた
- ガムテープ
- カラーペン

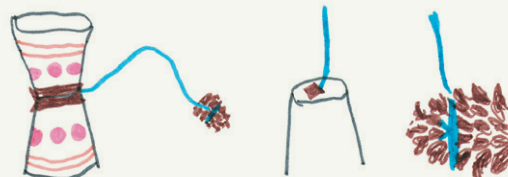
作り方

まず、毛糸けいとのはしを、まつぼっくりにまきつけます。そして、とれないように、きつくむすびます。

つぎに、毛糸のはんたいがわのはしを、ガムテープで、紙コップのそこにつけます。

それから、その毛糸けいとをはさむようにして、もう一つの紙コップかみをのせます。コップのそこそこをぴったりあ合わせて、ガムテープでしっかりとめます。

紙コップに、カラーペンできれいな模様をつけて、できあがりです。



へあそび方<sup>かた</sup>  
ふた  
二つの紙<sup>かみ</sup>  
びます。何<sup>なん</sup>

ふた  
二つの紙コップに、じゅんばんにまつぼっくりを入れてあそ  
びます。何回なんかいつづけてできるか、数かずえると楽しいですよ。

④ 友だちと読み合おう。

書いた文（ぶん）しょうを  
友（とも）だちと読（よ）み合（あ）い、「くふうして

いるな』<sup>おも</sup>と思ったところをつたえ合<sup>あ</sup>いましょう。

5



たいせつ

じゅんじょが  
わかるように書く

○ まとまりが はつきり  
わかるように書く。

○ じゅんじよが分わかるこ  
とばをつかかって書く。



いかそう

何かのつかい方や  
しかたをせつめいす  
るときには、じゅん  
じょが分かるように  
書きましよう。

5

5

作<sup>つく</sup>り方<sup>かた</sup>のじゅんじよが分<sup>わ</sup>かるように、「まず」「つぎに」などのことばをつかったよ。







ことば

にたいみのことば、  
はんたいのいみのことば



といをもとう

「話す」と「言う」のように、いみがにている  
ことばや、「大きい」と「小さい」のように、い  
みがはんたいのことばを 知っていますか。

### にたいみのことば

「話す」も「言う」も、声に出して  
ことばでつたえることを あらわす、  
にたいみのことばです。

### 1 つぎの 線の ことばと にたい みのことばを 考えましょう。

5



• うつくしい 星空をながめる。



• 黒板に新聞をはる。



• 新聞  
• 黒板

### はんたいのいみのことば

これは大きい。

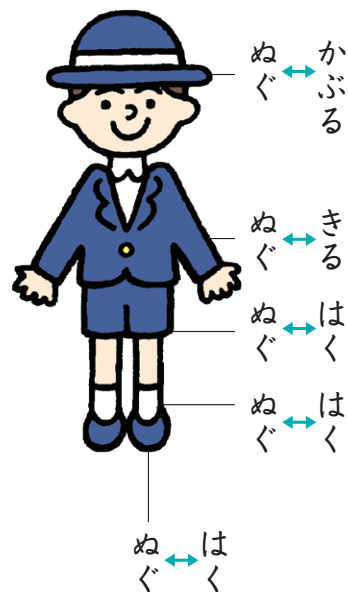
これは小さい。



「大きい」と「小さい」は、はん  
たいのいみをあらわす ことばです。

一つのことばに、はんたいのいみ  
のことが 一つとはかぎりません。

5



### 2 つぎのことばの、はんたいのいみ のことばを 考えましょう。

• 上  
• 少ない  
• 立つ

にたいみのことばや、はんたいの  
いみのことばの 組を作りま  
しょう。

「ことばのたからばこ」  
165 ページ



5

• 少ない



いかそう

にたいみや、はんたいのいみのこ  
とばを 見つけて、つかえることば  
を ふやしていきましょう。

10





聞いて楽しもう

# せかい一の話

先生に読んでもらって、  
おかし話を楽しみましょう。

きたしろうすけ 文  
やまふくあけみ 絵



いちばんおもしろいと思っ  
たところはどこですか。  
友だちと話しましょう。

150 ページ

こんな言い方を  
つかってみましょう。  
「——が、——  
するところですよ。」

どうが







よ  
読  
む

おも  
思いうかべたことをもとに、  
はなし  
お話をしようかいしよう



かん字の  
ひろば

4

ねんせい  
1年生でなつた  
かん字

数をあらわすことばを つかって、算数の  
もんだいを作りましょう。

れい

ひゃくえんだま  
七十円のだいこんを 一本買いました。  
百円玉を出すと、おつりはいくらでしょう。

これまでの  
がくしゅう



お話の ようすを 思いうかべる



(スイミー) ..... 上80ページ  
とうじょうじんぶつと自分をくらべて、かんそう  
をもつ (お手紙) ..... 28ページ

みきのたからもの

ある日、みきは、公園で カードのよ  
うなものをひろいます。いったい、だれ  
のもちものなのでしょう。そして、みき  
のたからものとは、何なのでしょう。



# みきのたからもの

はちかいみみ 作  
しばた ケイコ 絵

公園の入り口に、トランプのカードのようなものが、おちていました。

「あれ。なんだろう。」

通りかかったみきは、かがんでそれをひろいました。

さがしている人が いるかもしれないと、カードをもつて、公園に入っていました。そこで、みきは、何なのか

よく分からないものを見つけたのです。

おそろおそろ近よると、それは、マヨネーズのようきみたいな形でした。でも、マヨネーズのようきよりも ずっと大きくて、どっしりとおもそうでした。

「すみません、そのカード。」

後ろで声がしました。ふりかえると、いつのまにか、見なれない生きものが 立っていました。「遠い星から来ました。わたしは、ナニヌネノン。」と、その生きものは言いました。

みきは、おどろいて 目を丸くしました。



マヨネーズ

• 遠い

• 作



「わたし、みき。」

と、少しきんちようしながら言いました。

「みきちゃんが、手にもっている、そのカード、わたしのです。それがないと、のりものがうごかないのです。どこかで、なくして、とてもこまっていたのです。」

「えっ。これ。」

みきは、ナニヌネノンに

カードをわたしました。

「見つけてくれて、ありがとう。たすかりました。わたしは、これから、自分の星



に帰ります。」

と言いながら、ナニヌネノンは、マヨネーズのようきみた  
いな 形のものに、近づいていきました。それが、ナニヌ  
ネノンののりものらしいのです。

「それにのって帰るの。」

と、みきはしつもんしました。おねがどきどきしました。

「はい。ふるさとのポロン星に。」

それなら、ナニヌネノンを見おくろうと思いました。空  
におかっただんたら、きっと、だんだん見えなくなるだろ  
うと 思いました。

「いいこと考えた。」

みきは、ポケットから、一本のリボンを するするととり出しました。あざやかなオレンジ色のリボンです。

「のりものの後ろに、このリボンをおすびつけて。」

と、みきはリボンをおすびつけました。

「どうしてですか。」

と、ナニヌネノンは首をかしげました。

「これから、空へおかけてとぶでしょう。そうしたら、きっと、つけたリボンがひらひらするでしょう。リボンが見えなくなるまで、ここで見おくりたいの。」

「ああ、ありがとう。」

と、ナニヌネノンはうれしそうに言いました。

5

10



ポケット  
。首

「だれかに、見おくってもらうなんて、はじめてです。だから、うれしいです。」

それから、ナニヌネノンは、のりものの後ろのところに、リボンをおすびつけました。

「そうだ。これ。」

ナニヌネノンは、みきに、小さな石をおすびつけました。

「これ、なあに。」

と、みきはたずねました。

「ポロン星の石です。きっとまた会えますように、というねがいをおめています。」

「ありがとう。」

10

5



みきは、目をかがやかせて、石をうけ取りました。きれいな青い石です。ビー玉ぐらいの大きさでした。

手の上の石を 少しかたむけると、かすかに光りました。

「石を、耳に 近づけてみてください。ポロロン星の風の音が 聞こえるはずです。」

と、ナニヌネンは言いました。

耳に近づけると、本当です。

ザアツ、ザアツ、ザアツ。

風がふきぬけるような音が

聞こえました。

「ああ、聞こえる。」



よく聞きとろうとして、目をつぶりました。海の音にも  
にていると思いました。

「みきちゃん、おとなになったら、ポロロン星に来てくだ  
さい。きっと、あそびに来てください。」

と、ナニヌネンは明るく言いました。

「どうしたら、ポロロン星に行けるの。」

と、みきはしつもんしました。

「ええと、そうですね。うちゅうに行けば、その石が 教  
えてくれます。ポロロン星まで、あんないしてくれるは  
ずです。」

「どうやって、うちゅうに行けばいいのかな。ええと、あ、

分<sup>わ</sup>かった。うちゅうひこうしになればいいよね。」

「いつか、きっと、また会<sup>あ</sup>いましょう。そろそろ、わたしは、しゅっぱつします。」

と、ナニヌネノン<sup>すこ</sup>は、少しいそぐように言いました。

「さようなら。」

と、みきは言いました。きゆうに、さびしい気<sup>き</sup>もちになりました。

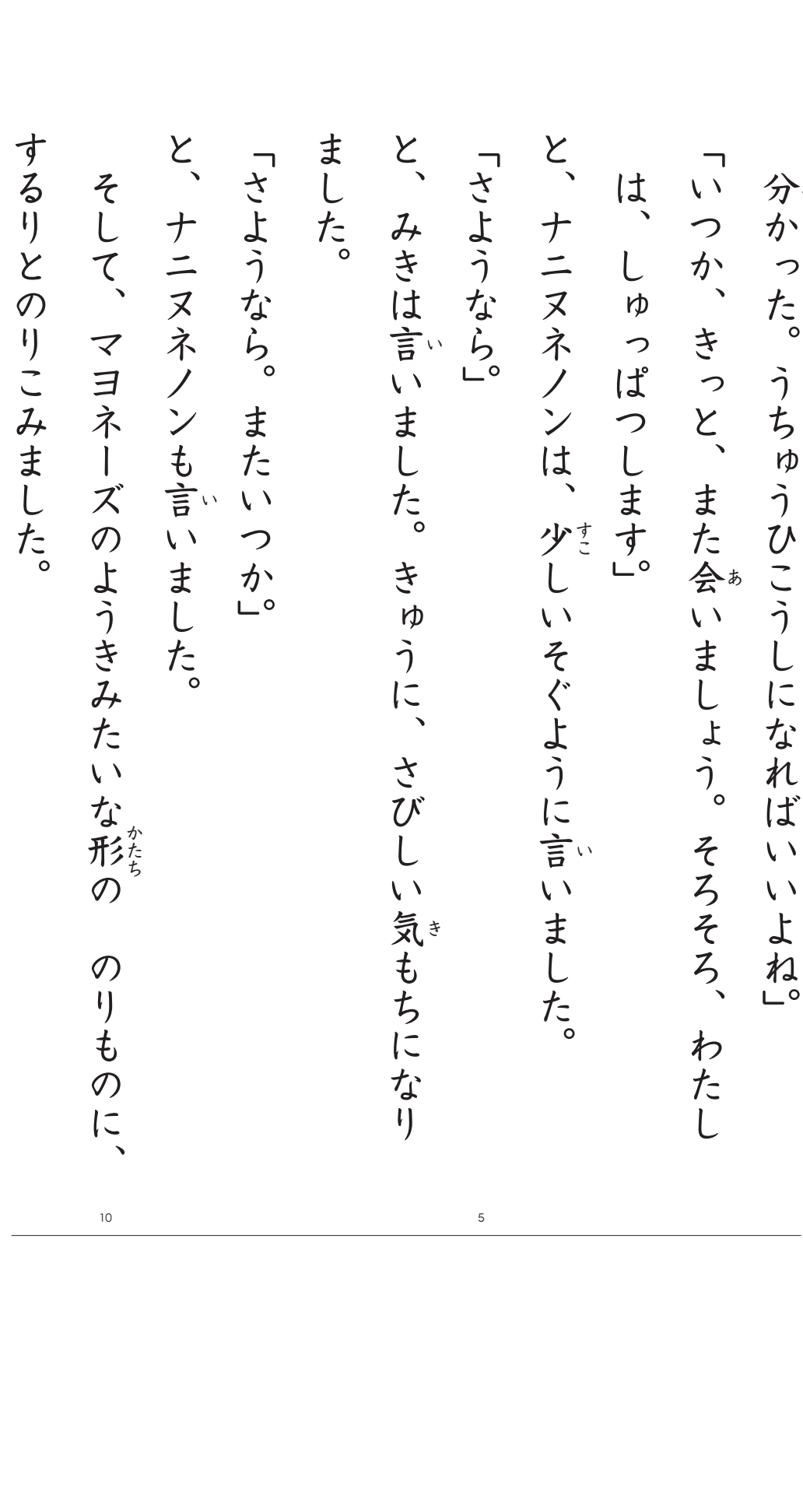
「さようなら。またいつか。」

と、ナニヌネノン<sup>い</sup>も言いました。

そして、マヨネーズのようきみ<sup>かたち</sup>たいな形ののりものに、するりとのりこみました。

みきは、なんども手<sup>て</sup>をふりました。ナニヌネノンも、のりものの中<sup>なか</sup>から手<sup>て</sup>をふりました。

グイーン、と音<sup>おと</sup>を立てて、のりものは、空<sup>そら</sup>高<sup>そら</sup>くとんでいきました。そして、ぐんぐんと空<sup>そら</sup>にすいこまれていったのです。





みきは、ひらひらとうごくリボンを、目でおいかけた。見うしなわないうように、一生けんめい見つめました。リボンは、だんだん見えなくなりました。

もらった小さな石を、ぎゅつとにぎったまま、みきは、ナニヌネノンがきえていった空を見上げていました。夕方<sup>ゆうがた</sup>のからすが、カア、カア、と鳴きながら、とんでいきました。

それからなのです。「しょうらいのゆめ」についてしつもんされたとき、みきが、「うちゅうひこうし」とこたえるようになったのは。

ナニヌネノンと出会ったことは、だれにも話していません。心の中に、そっとしまっておきたいできごとなのです。みきのつくえの引き出しには、あるときにもらった小さな石が、だいじにしまつてあります。

ひみつのたからものです。

「はちかいみみさんは、「お月見テンテン」「ふくろうのオカリナ」なども書いています。



どうが





見通しをもとう



といをもとう

あなたは、このお話の ほんなところを、「いいな」「おもしろいな」「ふしぎだな」などと思いましたが、それは、どうしてですか。

あらすじ

お話のないようを  
みじかくまとめた  
もの。  
164 ページ



もくひよう

ようすを思いうかべながら読み、すきなど  
ころがつたわるように、お話をしようかいし  
よう。

- ・おもしろいところや すきなところを  
見つけて、読書を楽しむ。
- ・出てきたものや じんぶつのようすを  
くわしく思いうかべる。

とらえよう

○だれが、何をしたか、どんなできごとがおこったかを たしかめて、あらすじをまとめましょう。

○「みき」が、この日 はじめて見たものは、何でしょう。そのようすを思いうかべましょう。

1 ことば

じんぶつのようすが くわしく思いうかぶ  
ことはを見つけましょう。

- 「おそろおそろ」(59ページ2行目)
- 「目をかがやかせて」(64ページ1行目)
- 「少しそぐように」(66ページ4行目)
- 「ぎゅつとにぎったまま」(68ページ4行目)

など

ふかめよう

○「みき」と「ナニヌネノン」が したことや  
言ったことをたしかめ、ふたりが そのように  
した理由や、言い方、ようすを考えましょう。①

まとめよう

○このお話の すきなところと、その理由も入  
れて、家の人に、お話をしようかいする文し  
うを 書きましょう。②

ひろげよう

○書いた文しうを 友だちと読み合い、「い  
いな。」と思うところを つたえましょう。

2 文しうのれい

「みきのたからものは、みきという女  
の子と、ナニヌネノンが出てくるお話です。  
ある日、みきは、カードのようなものを  
ひろいます。そして、ナニヌネノンに出会  
います。ナニヌネノンは、ポロン星から  
みきには、うちゅうひこうしになるとい  
うめができました。  
わたしがすきなものは、みきが、青い石を  
もらうところです。光る石のようすや、「目  
をかがやかせて」というみきのようすから、  
きれいでふしぎな石が思いうかんで、わく  
わくするからです。」

すきなところと、  
その理由

あらすじ



ふりかえろう

知る  
読む  
つなぐ

どんなお話を、もっと読んでみたいと思  
いしましたか。  
どんなことに 気をつけて、じんぶつのようすを思  
いうかべましたか。  
つぎに お話をしようかいする時には、どのようにつ  
たえたいですか。



たいせつ

## じんぶつのようすを思いうかべる

- お話の中に 出てくるものの ようすを思いうかべ、じんぶつのしたことや できごととむすびつける。
- じんぶつのようすから、どうして そのことをしたり 言ったりしたのか、その理由などを考える。

5



いかそう

お話を読んだら、あらすじや すきなところを、そのお話を 読んだことのない人に つたえてみましょう。



## この本、読もう

「みきのたからもの」のように、楽しく読めるお話です。じんぶつのようすを 思いうかべながら読みましょう。 気に入ったお話を、友だちとしようかいし合ってもいいですね。

10

わたしは、ロボットがすきだから、「おそうじロボットのキュキュ」を読んでみたいな。

「みきのたからもの」は、「ナニヌネノン」のようすがおもしろかった。「かげパ」には、どんなじんぶつが出てくるのかな。



○ うちゅう人がどうじようするお話です。

うちゅうじんだぞ  
おとうとうさぎ！



うちゅうじん  
宇宙人がいた

5

○ いろいろなロボットが出てくるお話です。

わんぱくだんの  
ロボットランド



おそうじロボットの  
キュキュ



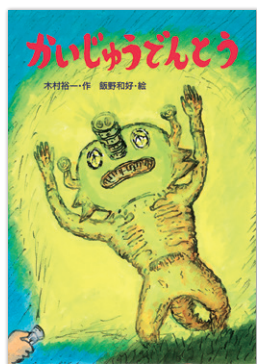
5

○ びっくりするようなできごとがおこります。

かげパ



かいじゅうでんとう



首 首 首 首 首 首 首 首

鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴

心 心 心 心 心 心 心 心



組み立てを考えて、お話を書こう

# お話のさくしやになろう

二年生になって、すきなお話はふえましたか。こんどは、あなたがさくしやになって、お話を書きましょう。



といをもとう

ニひきのねずみが、木のみをさがしに出かけます。あなただったら、どんなお話にしますか。



もくひょう

だれが、何をするか、どんなできごとがおこるかを考え、まとまりに分けて お話を書こう。

## ① どんなできごとがおこるかを 考えよう。

ニひきは、さいごには、木のみを もって帰ってくる ことができたようです。さて、ニひきは、どんなねずみで、どんなできごとがおこるのでしょうか。つぎの絵から一つをえらんで、考えてもいいですね。



5

## ● たしかめよう

「二年生までに学んだこと」……… 9 ページ

## ● 見通しをもとう

きめよう  
あつめよう

① どんなできごとがおこるかを 考える。

組み立てよう

② 考えたお話を、まとまりに分けて話す。

書こう

③ お話を書く。

つなげよう

④ 読み合って、かんそうをつたえる。

## ● ふりかえろう

- 主語と述語に 気をつける。
- 「はじめ」「中」「おわり」のまとまりで、お話を組み立てる。

## ○ お話を考えるときは

- 〈どんなとうじようじんぶつか〉
- 名前
- すきなことや、とくいなこと
- 〈どんなできごとがおこるか〉
- だれかと出会う
- 何かを見つける
- こまったことがおこる など

5



## ② 考えたお話を、まとまりに分けて話そう。

「はじめ」「中」「おわり」のじゆんに、考えたお話を友だちに話しましょう。

### ③ 組み立てのれい



あおきさん

#### はじめ



歌が大すきな「チュウ子」と、木のぼりがじょうずな「ねずた」が、木のみをさがしに行きました。

5

#### 中



森に入ると、ふくろうのおじいさんに会いました。おじいさんは、二ひきに

10

言いました。――

#### おわり



二ひきは、ふくろうのおじいさんに教えてもらったばしよで、たくさんの木のみを見つけ、歌いながら野原に帰りました。

5

▼ あおきさんが考えた組み立てで、まねしてみたいと思います。うところはありますか。

### ③ お話を書こう。

「はじめ」「中」「おわり」を、それぞれ、どのように書くか、よいかを考えましょう。「おわり」まで書いたら、お話にぴったりのだいをつけましょう。

10

### ④ 組み立てを考えたときは

#### はじめ

• とうじょうじんぶつのしょうかい

• お話のきつかけ

#### 中

• おこったできごと

• だれが、何を言ったり、したりするか

#### おわり

• とうじょうじんぶつが、さいごにどうなるか

ほかに、だいじだと思つたことはありますか。

10

5

### ⑤ 友だちの考えたお話を聞いたときは

- 「いいな」と思つたところを言う。
- こうしたら もっとおもしろくなりそうだと 思ふことを言う。

5

ふくろうのおじいさんがさがしているものを、ねずたが木の上で 見つけてあげることにしたらどうかな。



# お話のれい

はじめ

ある日、チュウ子とねずたは、森へつづく道を  
あるいていました。木のみをさがしに行くのです。

中

ふくろうのおじいさんは、こまった顔になって、  
「わたしのめがねを、どこかで見かけなかったか」  
とたずねました。  
「むこうの木に引っかけかっていたよ。ぼくたちが、  
とってきてあげるよ」。

おわり

二ひきのかばんは、木のみでいっぱいになりま  
した。そして、それをもって、歌を歌いながら、  
野原に帰りました。

だいめいは、「ふくろ  
うおじいさんのさがしも  
の」にしようかな。

## 書きだしを考えるときは

- いつの話か、どこの話かを書く。
- むかし話など、知っているお話の  
書きだしをまねする。

## 「中」のできごとを書くときは

- だれが(主語)、何をしたか(述語)  
が、分かるように書く。
- じんぶつが話したことばを、かぎ  
(「」)をつかって書く。

## 「話すこと」をあらわすことば

- 言う
- 知らせる
- つたえる
- たずねる
- 教える
- こたえる
- ささやく
- さけぶ など



たいせつ

組み立てを考えて、  
お話を書く

- 「はじめ」「中」「おわり」の  
まとまりに分けて考える。
- 「中」には、だれが、何をし  
たかが よく分かるように、  
できごとのようすを くわし  
く書く。



いかそう

できごとをつたえるとき  
には、主語と述語に 気を  
つけましょう。



ふりかえろう

知る  
書く  
つなぐ

だれが、何をしたかが、分かりやすく書いたのは、どこですか。  
お話の組み立てを 考えるとき、どんなことに 気をつけましたか。  
つぎは、どんなお話を 書いてみたいですか。



二ひきが、ふくろうのおじいさ  
んのさがしものを 見つけてあげ  
たところが、おもしろかったよ。

5

10

5

10

5

10

5



きせつの  
ことば 4



# 冬がいつぱい

さざんか



せんりょう



みの虫

ゆず



ひいらぎ



つばき



はくちょう

まがも



すいせん



うめの花



冬をかんじるものを、カードに書きま  
しょう。これまでに書いてきたカードを、  
友だちと読み合ってもいいですね。

はくさい  
はたけで、はくさい  
いが、大きくなって  
いました。はくさい  
が、冬にとれるやさ  
いだと、はじめて  
知りました。



10



みかん  
あたたかいこた  
つに入って、みか  
んを食べました。  
あまくて、おいし  
かったです。

15

冬

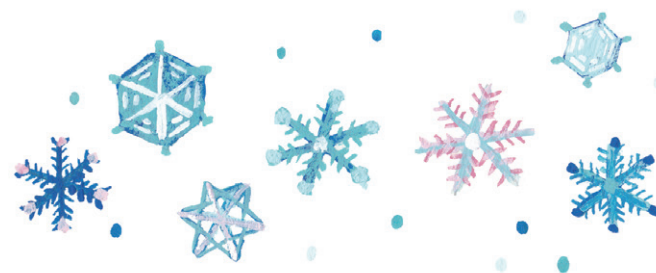


ゆき

(文部省唱歌)

ゆきや こんこ  
あられや こんこ  
ふっては ふっては  
ずんずん つもる  
やまも のはらも  
わたぼうし かぶり  
かれきのこらず  
はなが さく

5



冬、冬、冬、冬、冬



## 詩の楽しみ方を見つけよう

それぞれの詩には、何が、どのように書かれているでしょうか。読んで、楽しみましょう。

ねこのこ

おおくぼていこ

あくび ゆうゆう  
あまえて ごろごろ  
たまご ころころ  
けいと もしやもしや  
かくれても ちりん  
しかられて しゅん  
よばれて つん  
ミルクで にゃん

5

おとのはなびら

のろさかん

ピアノのおとに いろがついたら  
ポロン ピアノが なるたびに  
ポロン ピアノが なるたびに  
おとのはなびら へやにあふれて  
にわにあふれて  
おとのかだんを つくるかしら

5



はびふべぽっつん



みみずのたいそう

この本、読もう

はんたいことば

はらだ なおとも

がくしゅう

○ ようすを思いうかべたり、  
ことばのひびきを楽しんだ  
りしながら読みましょう。

ことば

音やようすが思いうか  
ぶことばや、「いいな」  
「おもしろいな」と思う  
書き方を見つける。

5

「うれしい」の  
はんたいことば

「いしれう」

「うれしくない」

「かなしい」

5

みんな

せいかい



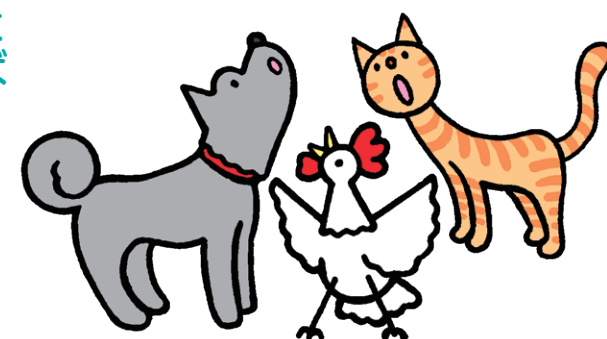
友だちに詩をおくろう

- ① おくりものにする、お気に入りの詩をえらびます。
- ② カードのおもてには、えらんだ詩を書きうつし、うらには、その詩をえらんだ理由を書きます。
- ③ 友だちにカードをわたして、読み合いましょう。

5



文<sup>ぶん</sup>し<sup>し</sup>ょう<sup>しょう</sup>を<sup>を</sup>書<sup>か</sup>く<sup>く</sup>とき、ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>が<sup>が</sup>な<sup>な</sup>と<sup>と</sup>か<sup>か</sup>た<sup>た</sup>か<sup>か</sup>な<sup>な</sup>を<sup>を</sup>  
ど<sup>ど</sup>の<sup>の</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>つ<sup>つ</sup>か<sup>か</sup>い<sup>い</sup>分<sup>わ</sup>け<sup>け</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>か。



かたかなで書くのは、つぎのようなことです。

なぐさの鳴き声

- 犬いぬが、ワンワンほえています。
- ニャーオ
- コケコッコー

外国がいこくから来たことば

- この道は、バスが通行します。  
みち つうこう
- コップに麦茶を入れます。  
むぎちゃ い

いろいろなものの音

- 雨戸をガラガラとしめました。
- かねが、ゴーンと鳴りました。

外国の、国や土地、人の名前

- インドの市場いちばに行いきました。
- エジソンは、はつめい家かです。

絵えの中なかのことはをつかって、かたかなで書くことはが入はいった文ぶんを作つくりましょう。



戸	戸戸戸戸	あまど 雨戸 (戸と)
麦	麦麦麦麦麦麦	むぎこちや 麦茶
茶	茶茶茶茶茶茶茶茶	むぎこちや 麦茶
地	地地地地地地地地	とち 土地
市	市市市市市市市市	いちば 市場
場	場場場場場場場場	



よ 読 む

だいじなことばに気をつけて読み、  
分かったことを知らせよう

これまでの  
がくしゅう



だいじなことばや文を見つける  
(紙コップ花火の作り方)

47 ページ



読んで、じぶんの考えをもつ  
(どうぶつ園のじゅうい)

134 ページ

## ロボット

人間は、いろいろなロボットを作ってきました。みなさんは、どんなロボットを見たことがありますか。



ことば

## ことばを楽しもう

「あいうえお」などをつかって、  
文を作りましょう。

あいうえお

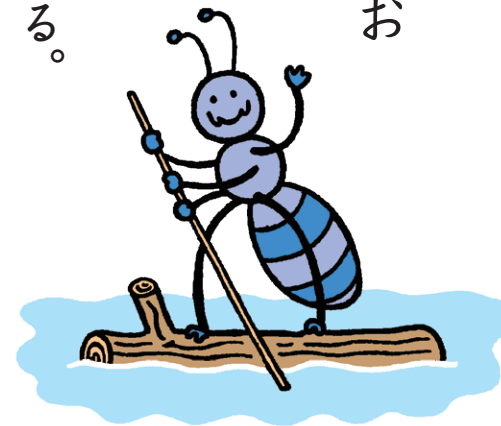
ありが、

いけに

う いている。

え だにのって

お でかけた。



上から読んだり、下から読んだりしましょう。  
声の高さや、読むはやさをかえてもいいですね。

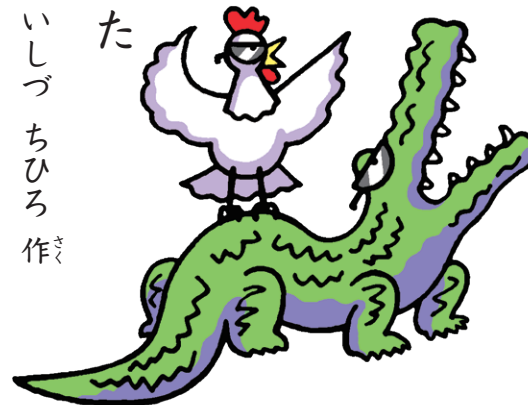
わるいにわとりとわにいろわ

ぞうくんぱんくうぞ

きんのはとはのんき

このらいおんおいらのこ

たったいまがんがまいたった



いしづ ちひろ 作



# ロボット

さとうともまさ

ロボットは、人をたすけてくれる、かしこいきかいです。人のかわりにそうじをするロボットや、ペットのかわりになるロボットなど、いろいろなものが作られてきました。今も、新しいロボットが考えられています。そして、わたしたちのみの回りでつかわれはじめています。どんなロボットがあるのでしょうか。どんなときに、たすけてくれるのでしょうか。

5

新しく考えられているロボットの  
一つに、にもつを家にとどけてくれるものがあります。このロボットは、ひとりでどうろをはしって、人の家まで、にもつをはこびます。にもつをまっている人は、とどける人が足りなかつたら、何日もまつことになるかもしれません。このロボットがあれば、とどける人が足りないときでも、にもつをうけとることができるのです。

5

10



また、水<sup>すい</sup>ぞくかんのようなしせつで、あんないをしてくれるロボットもあります。このロボットは、人<sup>ひと</sup>のしつもんを聞<sup>き</sup>いて、答<sup>こた</sup>えたり、道<sup>みち</sup>あんないをしたりします。たとえば、水<sup>すい</sup>ぞくかんには、水<sup>すい</sup>そうがたくさんあります。見<sup>み</sup>たい生きもの<sup>い</sup>の水<sup>すい</sup>そうまで、どう行<sup>い</sup>けばいいか分<sup>わ</sup>からないこともあるでしょう。でも、教<sup>おし</sup>えてくれる人<sup>ひと</sup>が、近<sup>ちか</sup>くにいないかもしれせん。このロボットがあれば、知<sup>し</sup>

10



○ 答<sup>こた</sup>える

りたいことがあるときに、すぐにしつもんすることができます。

ほかに、空<sup>そら</sup>をとんで、あぶないばし<sup>み</sup>のようなすを見<sup>み</sup>に行<sup>い</sup>ってくれるロボットもあります。このロボット

5

は、ほかのものにぶつからないようにしながら、きめられたばし<sup>み</sup>までとんでいきます。そして、体<sup>からだ</sup>についているカメラで、空<sup>そら</sup>からしゃしんやどうがをとります。じしんやこうずいがおきたら、たてものがこわれて

10





いないかや、川の水がどれぐらいふ  
えているかを、たしかめなければな  
りません。でも、歩いてしらべに行  
くと、とちゅうで道がくずれたり、  
水がながれてきたりして、けがをし  
てしまうかもしれません。このロ  
ボットがあれば、あぶないばしょに  
近づけないときに、ロボットがとっ  
たしやしんやどうがを見て、ようす  
を知ることができます。

このように、新しいロボットが、

10



歩く

つぎつぎに考えられています。どれも、わたしたちがこ  
まっているときに、たすけてくれるロボットです。これか  
らみなさんは、今より多くのロボットと、いっしょに生き  
ていくようになるでしょう。あなたは、どんなロボットが  
あればよいと思いますか。それは、どんなときに、わたし  
たちをたすけてくれるのでしょうか。ぜひ、考えてみてく  
ださい。

5

さとうともま  
さんは、ロボッ  
トのことをけんき  
うしている人です。

見通しをもとう



といをもとう

あなたが「おもしろいな」「すごいな」と思ったロボットは、どれですか。それは、どうしてですか。



もくひょう

だいじなことは何かを考えながら読み、分かったことや思ったことを、友だちにつたえよう。

- ・ロボットについて書かれた本を、えらんで読む。
- ・読んで分かったことをつたえ合い、友だちの考えを知る。

とらえよう

○この文しょうは、ロボットについて、どのようなことをせつめいしているでしょうか。

ふかめよう

○「ロボット」には、どんな新しいロボットが出てきましたか。そのロボットは、どんなときに、何をしてたすけてくれるのでしょうか。だい

まとめよう

じなことを、ノートに書きましょう。①

○「ロボット」と「もっと読もう」(97ページ)を読んで、ほかに、どんなロボットがあったらいいと思いましたか。理由も考えましょう。

ひろげよう

○考えたことを、友だちとつたえ合いました。○ロボットについて書かれた本を読みましょう。「あったらすかるな」と思うロボットをえらび、友だちにせつめいしましょう。②



ふりかえろう

知る 読む つなぐ

読んだ本には、せつめいしたことのほかに、どんなことが書いてありましたか。友だちのせつめいを聞いて、いちばん心にのこったのは、どんなことですか。本を読んで分かったことをせつめいするときには、どんなことに気をつけたいですか。

① ことば

つぎのようなことばに気をつけましょう。  
・「このロボットは、——」(89ページ3行目など)  
・「このロボットがあれば、——ときでも(とき)、——ができます」(89ページ8行目など)

② 本を読んで、せつめいする

- ① 本の中から、つぎのことを見つけて、メモする。  
・「この本、読もう」 96ページ  
・どんなロボットか。  
・どんなときに、何をしてたすけてくれるか。
- ② 友だちとせつめいし合う。



わたしは、「ロボット大研究③」という本で見つけた、自分のかわりになるロボットについて、せつめいします。これは、その場に自分がいなくても、がめんに自分をうつして、ほかの人とむき合って話したり、いっしょにうごいたりできるロボットです。このロボットがあれば、——。





たいせつ

読んで、分かったことや  
思ったことをつたえ合う

○ だいじなことを見つけながら読んで、はじめて知ったことや、「すごいな。」と思ったことをつたえる。  
○ 友だちの話を聞いて、「いいな。」と思ったことをつたえる。



いかそう

友だちの考えを聞いたなら、どこからそのように考えたのか、理由もたしかめるようにしましょう。

10

5



この本、読もう

いろいろなロボットを  
しようかいしている本です。  
ほかにも、図書館でさがし  
てみましょう。

5



家庭や介護で  
がんばるロボット

ロボット  
大研究③



ロボット  
大研究②



災害現場や探査で  
がんばるロボット



答 答 答 答 答 答 答 答 答

歩 歩 歩 歩 歩 歩 歩 歩 歩



もっと読もう

今、かつやくしているロボットを、見てみましょう。  
う。どのロボットも、人をたすけるために作られた  
ものです。

工場

● 車に色をぬるロボット  
車を作る工場で、たくさんの車  
体に、じどうできれいに色をぬつ  
てくれます。



● 人の体をささえるロボット  
こしをまげるしせいのままでい  
ても、つかれないように、ささえ  
てくれます。



● うちゅうをしらべるロボット  
うちゅうまで行って、遠くの星  
のようすをしらべたり、石などを  
もち帰ったりしてくれます。



5



## ことばについて考えよう

### ようすをあらわすことば

ロボットの「ロボロボ」は、小学校で、みんなといっしょにがくしゅうしています。ある日、友だちに話しかけられました。



### といをもとう

しつもんした友だちは、どうして、まどの近くまで来て、自分でたしかめたのでしょうか。

人に何かをつたえるときは、ようすをくわしく言えるといいですね。もし、雨が、下のほうがやしんのうにふっていたら、どんな言い方をすればよいか、考えてみましょう。

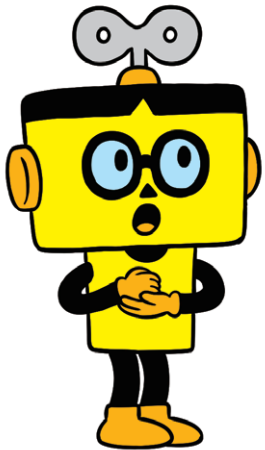
▼ つぎの言い方から、どんなことが分かりますか。

• 雨が、はげしくふっている。

▼ つぎのような言い方もあります。どんなようすがつたわるでしょうか。

• 雨が、ざんざんふっている。

ことばのかんじから、雨のいきおいが伝わってくるね。



雨がふるようすをみてみましょう。



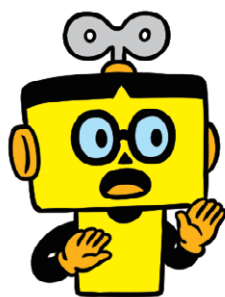


▼ つぎの二つの文は、雨の、どのようなようすをあらわしているでしょう。

- ・雨が、たきのようにふっている。
- ・雨が、バケツをひっくりかえしたみたいにふっている。



5



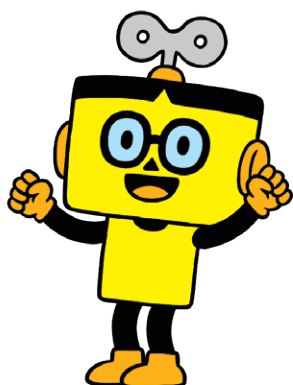
雨を、べつのものにたとえているね。



どちらも、雨がひどくふっていることが分かるけれど、つたわってくるかんじがちがうね。

ようすをつたえるときには、つたえたいようすにぴつたり合う言い方をしましょう。

これからは、ようすをあらわすことばをつかって、話したり書いたりしよう。



✓ ようすをあらわすときは

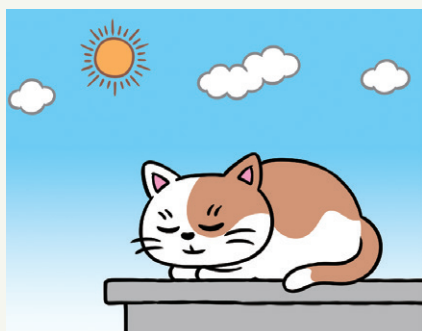
- 「はげしく」「つよく」など、どのくらいかをあらわすことばをつかう。
- 「ざんざん」「ザーザー」など、ことばのひびきによって、ようすをあらわすことばをつかう。
- 「——のように」「——みたいに」というたとえをつかう。

5

ほかに、だいじなことはあるかな。



ようすが分かるように、文を書こう。



ようすをあらわすことばや、たとえをつかって、絵にあらわされているようすを、文にしてみよう。



書く

詩を作って、読み合おう

# 見たこと、かんじたこと

詩は、見たことや聞いたこと、思ったことやかんじたことなどを、みじかく書きあらわしたものです。  
つぎの、二年生が作った詩を読んでみましょう。

バラのまつぼっくり

くぼ マリア

休み時間に  
四年生のいぶきちゃんと  
りのちゃんのお店で  
バラの花みたいな

名前なににしよう

わかつき りこ

あめの日  
かだんのちかくに  
のっそりのっそり  
あるいていた

まつぼっくりを買ったよ。  
はっぱのお金で買ったよ。  
すぐきれいなまつぼっくり  
たからものにするよ。

かたつむり  
つかまえた  
名前なににしよう



あなたも、詩を書きましょう。  
書いたら読み合って、「おも  
しろいな」「ようすや気もちが  
よく分かるな」と思うところを  
つたえましょう。



ふりかえろう

知る  
書く  
つなぐ

友だちの詩の、ようすや気もちがよく分かると思ったことばは、どれですか。  
自分が書いた詩のよいところは、どこだと思いましたか。  
これから詩を書くときには、どんなことに気をつけたいですか。



たいせつ

書いたものの  
よいところを見つける

- つぎのようなことから、さく  
ひんのよさを見つける。  
・ ないようや、つかっているこ  
とばのおもしろいところ  
・ ようすや気もちがよくつたわ  
ることば



いかそう

よいと思ったことは、こ  
れから詩やお話を書くとき  
にも、つかってみましょう。

○ 詩に書くことを考えるときは

- ・ 見たこと ・ 聞いたこと  
・ さわったもの ・ 食べたもの  
・ やってみたこと  
・ 思ったことやかんじたこと

○ 学びをいかそう

「ようすをあらわすことば」(98ページ)  
で学んだことばをつかって、詩を書きま  
しょう。

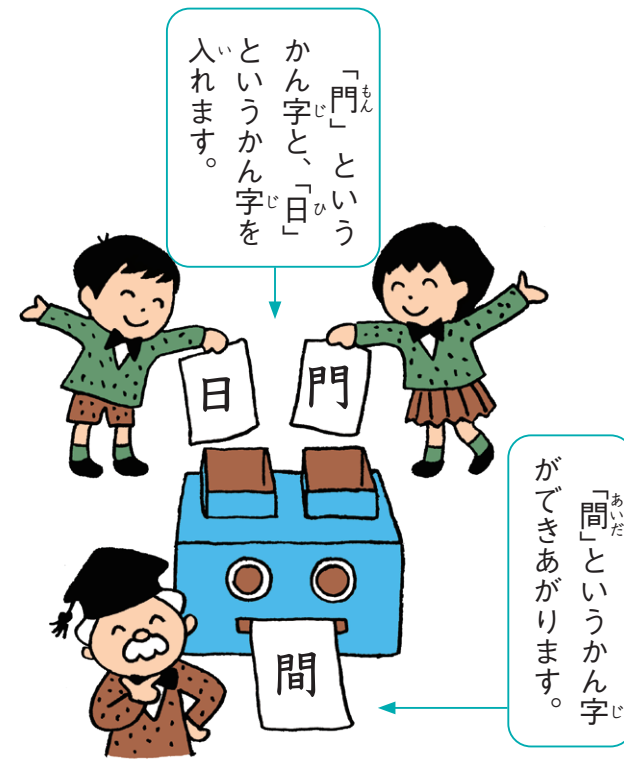
- ・ 「ざんざん」など、ことばのひび  
きで、ようすをあらわす。  
・ 「——ように」「——みたいに」を  
つかって、ようすをあらわす。



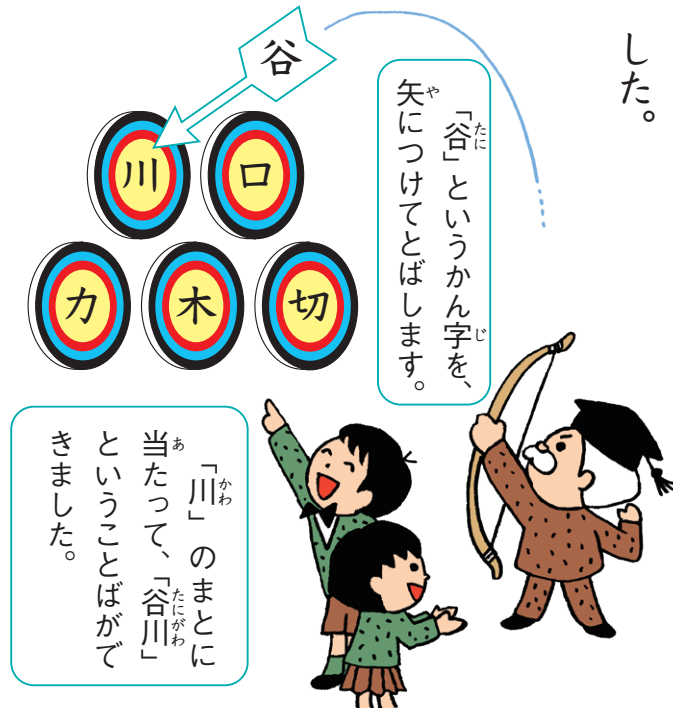


カンジーはかせの  
大はつめい

かん字の天才、カンジーはかせが、  
二つのかん字を合体させるきかいを  
はつめいしました。

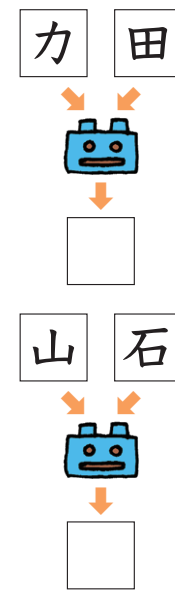


カンジーはかせは、二つのかん字  
でことばを作る弓矢もはつめいしま  
した。



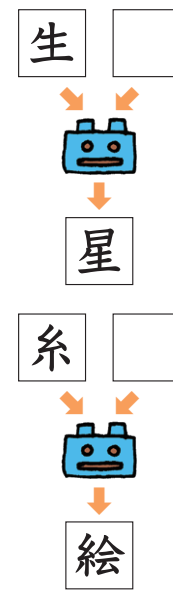
1

つぎのかん字を入れると、ど  
なかん字ができるでしょうか。



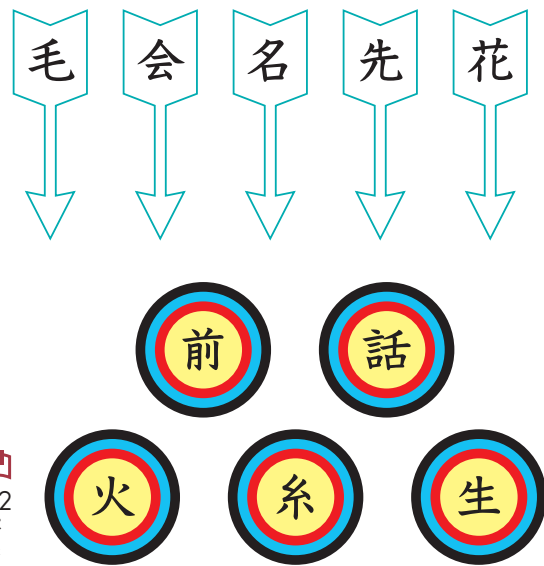
2

つぎのかん字ができるためには、  
はじめに、どんなかん字を入  
るとよいでしょうか。



3

つぎの矢を弓でとばすと、ど  
のまあとに当たるでしょうか。ど  
なことばができますか。



162 ページ

天才  
• 合体  
門

弓矢

オオオオ

天才

弓矢

弓矢

門

矢矢矢矢



## 思いをつたえる手紙を書く

# すてきなところをつたえよう

一年間、友だちいろいろなことをしてすごしたね。その中で見つけた、友だちのすてきなところを、手紙でつたえましょう。



### といをもとう

友だちのどんなところを、「いいな」「すてきな」と思いますか。どんなことに気をつけて書くと、あなたの思いが伝わるでしょうか。



### もくひょう

思いをつたえる手紙を、読む人のことを考えて、分かりやすく書こう。

- ていねいなことばと、ふつうのことばとのちがいに気をつける。
- まとまりに気をつけて、つたえたいことを分かりやすく書く。

## ① つたえることをきめよう。

だれに手紙を書くかをきめましょう。そして、友だちのすてきなところ、あなたがそうかんじたときのことを、書き出しましょう。

5

はやしいきさん

やさしい

- 計算を教えてください。
- 1年生がころんだとき、ほけん室につれていってあげていた。

5

## ② つたえることを書き出すときは

- 友だちといっしょにしたことや、友だちがしていたことを思い出す。
- どのなところをすてきだとかんじたのかなど、自分の気もちを思い出す。

5

## ② 手紙に書くことを、

まとまりごとにたしかめよう。

108 ページを見て、手紙に書くことをたしかめましょう。



計算

ほけん室

## ● たしかめよう

「二年以上までに学んだこと」……9 ページ

## ● 見通しをもとう

きめよう  
あつめよう

① つたえることをきめる。

組み立てよう

② 手紙に書くことを、まとまりごとにたしかめる。

書こう

③ 手紙を書いて、読みかえす。

つなげよう

④ 手紙を読んで、へんじを書く。

## ● ふりかえろう



### ③ 手紙を書いて、読みかえそう。

読む人に、思いが伝わるように書きましょう。

○ おおかわさんの手紙

はやしたいきさん  
たいきさんのすてきなところは、いつもやさしいところです。  
ろう下で一年生がころんだとき、たいきさんは、すぐに声をかけて、ほけん室につれていってあげていました。わたしは、どうしようと思ひながら見ているだけだったので、すてきだと思いました。  
これから、やさしいたいきさんでいてください。

おおかわはな

自分の名前

よびかけるようなことば

すてきだとかんじたときのこと

すてきなところ

あいての名前

しもだ かほさん  
かほさんは、サッカーのれんしゅうをがんばっています。  
朝のスピーチで、サッカーチームのれんしゅうを十月からずっと休んでいないと言っていましたね。かほさんが、サッカーをがんばっていることが、とてもよく伝わってきました。  
こんど、ぼくともサッカーをしてください。  
さい。

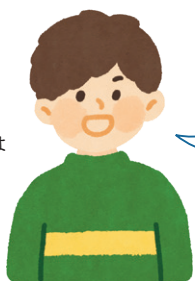
おおきつむぐ

○ あおきさんの手紙

▼ おおかわさんとあおきさんの手紙を見て、気づいたことや、「いいな。」と思うところを、話し合ひましょう。

はじめに、あいてのすてきなところを、みじかく書いているから、つたえたいことが分かりやすいな。

ていねいなことばで書いているね。ふつうのことばで書くときと、どちらがうのかな。



書きおわったら、読みかえしましょう。まちがいや分りにくいところを直してから、手紙をわたしましょう。

### ④ 手紙を読んで、へんじを書こう。

手紙をもらったたら、へんじを書きます。手紙を読んで思ったことや、あいてのいいところをつたえましょう。

☑ 思いをつたえる手紙を書くときは

□ はじめに、つたえたいことをみじかく書く。

□ いつ、どんなときにすてきだとかんじたか、そのときのことをくわしく書く。

□ できごとと、そのときに思つたことを、分けて書く。

□ よびかけるようなことばを入れるなど、思いが伝わるように書く。

ほかに、だいじだと思つたことはありますか。



スーホの白い馬しろ うま

モンゴルの草原にすむ、「スーホ」という少年と白い馬のお話です。「スーホ」にとって、白い馬は、どんな馬なのでしょいか。



よ  
読む

読んで、かんじたことを  
つたえ合おう

これまでの  
がくしゅう



じんぶつおものようすを思いうかべる  
(みきのたからもの) ……………



72 ページ



お話の ようすを 思いうかべる  
(スィミー) …… おも



上<sup>じょう</sup>  
80  
ページ



## ふりかえろう

つなぐ 書く 知る

ことばのつかい方で気をつけたのは、どんなことですか。  
よ　ひと　おも　読む人に思いがったわるようにくふうしたのは、どんなことですか。  
てがみ　か　手紙を書いたり、もらったりして、どんな気もちになりましたか。

計  
計  
計  
計  
計  
計  
計  
計  
計  
計

室 室室室室室室 ほけん室

おおかわ はな さん  
お<sup>てがみ</sup>手紙をありがとうございます。  
はなさんは、いつも<sup>げんき</sup>元気な<sup>こえ</sup>声であい  
さつしているところがすてきです。  
はやしたいいき



あおき つむぐさん  
スピーチをおぼえていてくれて、  
うれしかったです。いっしょに  
サッカーをするのが<sup>たの</sup>しみです。  
しもだ かほ



## たいせつ

おも  
思いが  
つた  
わる  
よう  
に書  
く

○ ないようのまとまりに氣きをつけて、つたえたいことをはつきり書かく。

○ あいてのどんなところについて、自分がおもったのかを、分かりやすく書く。



いかそう

かんが 考えやかんそうを書くときにも、つ  
たえたいことをわかりやすく書きま  
しょう。



# スーホの白い馬

おおつかゆうぞう 作  
あかばすえきち 絵

中国の北の方、モンゴルには、広い草原が広がっています。そこにすむ人たちは、むかしから、ひつじや牛や馬などをかって、くらしていました。

このモンゴルに、馬頭琴というがっきがあります。がっきのいちばん上が、馬の頭の形をしているので、馬頭琴なのです。いったい、どうして、こういう

がっきができたのでしょうか。

それには、こんな話があるのです。

むかし、モンゴルの草原に、スーホという、まずしいひつじかいの少年がいました。

スーホは、年とったおばあさんとふたりきりで、くらしていました。スーホは、おとなにまけないくらい、よくはたらきました。毎朝、早くおきると、スーホは、おばあさんをたすけて、ごはんのしたくをします。それから、二十頭あまりの

馬 草原 少年 牛 北

馬頭琴



二十頭

ひつじをおって、広い草原に出ていきました。

スーホは、とても歌がうまく、ほかのひつじかいたちにたのまれ、よく歌を歌いました。スーホのうつくしい歌声は、草原をこえ、遠くまでひびいていくのでした。

ある日のことでした。日は、もう遠い山のおこうにしずみ、あたりは、ぐんぐんくらくらくなってくるのに、スーホが帰ってきません。おばあさんは、しんぱいになってきました。近くにすむひつじかいたちも、どうしたのだろうと、さわぎはじめました。

みんながしんぱいでたまらなくなったころ、スーホが、何か白いものをだきかかえて、帰ってきました。

みんながそばにかけよってみると、それは、生まれたばかりの、小さな白い馬でした。

スーホは、にこにこしながら、みんなにわけを話しました。

「帰るとちゅうで、子馬を見つけたんだ。これが、じめんにたおれて、もがいていたんだよ。あたりを見ても、もちぬらしい人もいないし、おかあさん馬も見えない。ほうっておいたら、夜になって、おかみに食われてしまうかもしれない。それで、つれてきたんだよ。」

日は、一日一日とすぎていきました。スーホが、心をこめて世話したおかげで、子馬は、すくすくとそだちました。体は雪のように白く、きりっと引きしまって、だれでも、思わず見とれるほどでした。



•食われる





あるばんのこと、ねむっていたスーホは、はっと目をさしました。けたたましい馬の鳴き声と、ひつじのさわぎが聞こえます。スーホは、はねおきると外にとび出し、ひつじのかこいのそばにかけつけました。見ると、大きなおおかみが、ひつじにとびかかろうとしています。そして、わかい白馬が、おおかみの前に立ちふさがって、ひつじにふせいでいました。

スーホは、おおかみをおいはらって、白馬のそばにかけよりました。白馬は、

体中あせびっしよりでした。きっと、ずいぶん長い間、おおかみとたたかっていたのでしょう。

スーホは、あせまみれになった白馬の体をなでながら、兄弟に言うように話しかけました。

「よくやってくれたね、白馬。本当にありがとう。これから先、どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ。」

月日は、とぶように過ぎていきました。ある年の春、草原いったいに、知らせがつたわってきました。このあたりをお

•兄  
•弟





さめているとのさまが、町でけい馬の  
大会をひらくというのです。そして、一  
等になったものは、とのさまのむすめと  
けっこんさせるというのでした。

この知らせを聞くと、なかまのひつじ  
かいたちは、スーホにすすめました。

「ぜひ、白馬にのって、けい馬に出てご  
らん。」

そこでスーホは、白馬にまたがり、ひ  
ろびろとした草原をこえて、けい馬のひ  
らかれる町へむかいました。

けい馬がはじまりました。たくましい

けい  
馬

わかものたちは、いっせいにかわのむち  
をふりました。馬は、とぶようにかけま  
す。でも、先頭を走っていくのは、白馬  
です。スーホののった白馬です。

「白い馬が一等だぞ。白い馬ののり手  
つれてまいれ。」

とのさまはさけびました。

ところが、つれてこられた少年を見ると、  
まずしいみなりのひつじかいではあ  
りませんか。そこで、とのさまは、むす  
めのおこにするというやくそくなどは、  
知らんふりをして言いました。

走る



「おまえには、ぎんかを三まいくれてやる。その  
白い馬をここにおいて、さっさと帰れ。」

スーホは、かっとなって、おちゅうで言いかえ  
しました。

「わたしは、けい馬に來たのです。馬を売りに來  
たではありません。」

「なんだと、ただのひつじかいが、このわしにさ  
からうのか。ものども、こいつをうちのめせ。」  
とのさまがどなり立てると、家來たちが、いっせ  
いに、スーホにとびかかりました。スーホは、おお  
ぜいになぐられ、けとばされて、氣をうしなって  
しまいました。

とのさまは、白馬をとり上げると、家來たちを引きつれて、大い  
ばりで帰っていききました。

スーホは、友だちにたすけられて、やっとうちまで帰りました。  
スーホの体は、きずやあざだらけでした。おばあさんが、つきつ  
きりで手当てをしてくれました。おかげで、何日かたつと、きずも  
やっとなおってきました。それでも、白馬をとられたかなしみは、  
どうしてもきえません。白馬はどうしているだろうと、スーホは、  
そればかり考えていました。白馬は、どうなったのでしょうか。  
すばらしい馬を手に入れたとのさまは、まったくいい氣もちでし  
た。もう、白馬をみんなに見せびらかしたくてたまりません。

そこで、ある日のこと、とのさまは、おきやくをたくさんよんで、  
さかもりをしました。そのさいちゅうに、とのさまは、白馬にのって、



●家來  
●売○る

みんなに見せてやることにしました。

家来たちが、白馬を引いてきました。

とのさまは、白馬にまたがりました。

そのときです。白馬は、おそろしい

いきおいではね上がりました。とのさま

は、じめんにころげおちました。白馬は、

とのさまの手からたづなをふりはなすと、

さわぎ立てるみんなの間をぬけて、風の

ようにかけだしました。

とのさまは、おき上がろうともがきな

がら、大声でとなりちらしました。

「早く、あいつをつかまえろ。つかまら

ないなら、弓でいころしてしまえ。」

家来たちは、いっせいにいかけまし

た。けれども、白馬にはとてもおいつけ

ません。家来たちは、弓を引きしぼり、

いっせいに矢をはなしました。矢は、

うなりを立ててとびました。白馬のせに

は、つぎつぎに、矢がささりました。

それでも、白馬は走りつづけました。

そのばんのことです。スーホがねよう

としていたとき、ふいに、外の方で音が

しました。

「だれだ。」





ときいてもへんじはなく、カタカタ、カタカタと、もの音がつついています。ようすを見に出ていったおばあさんが、さけび声を上げました。

「白馬だよ。うちの白馬だよ。」

スーホははねおきて、かけていきました。見ると、本当に、白馬はそこにいました。けれど、その体には、矢が何本もつきささり、あせが、たきのようにながれおちています。白馬は、ひどいきずをうけながら、走って、走って、走りつづけて、大すきなスーホのところへ帰ってきたのです。

スーホは、はを食いしぼりながら、白馬にささっている矢をぬきました。きず口からは、血がふき出しました。

「白馬、ぼくの白馬、しなないでくれ。」

でも、白馬は、弱りはてていました。いきは、だんだん細くなり、

目の光もきえていきました。

そして、つぎの日、白馬は、しんでしまいました。

かなしさとかやしさに、スーホは、いくばくもねわれませんでした。でも、やっとなるばん、とろとろとねむりこんだとき、スーホは、白馬のゆめを見ました。スーホがなでてやると、白馬は、体をすりよせました。そして、やさしくスーホに話しかけました。

「そんなになしなまないでください。それより、わたしのほねやかわや、すじや毛をつかって、がっきを作ってください。そう





すれば、わたしは、いつまでもあなたのそばにいられますから。」

スーホは、ゆめからさめると、すぐ、そのがつきを作りはじめました。ゆめで、白馬しろうまが教えてくれたとおりに、ほねやかわや、すじや毛けを、おちゅうで組み立てていきました。

がつきはできあがりました。これが馬頭琴ばとうきんです。

スーホは、どこへ行くときも、この馬頭琴ばとうきんをもっていきました。それをひくたびに、スーホは、白馬しろうまをころされたくや

しさや、白馬しろうまにのって草原そうげんをかけ回まわった楽しさたのしみを思い出おもしました。そして、スーホは、自分のすぐわきに白馬しろうまがいるような気がしました。そんなとき、がつきの音おとは、ますますうつくしくひびき、聞く人の心こころをゆりうごかすのでした。

やがて、スーホの作り出した馬頭琴ばとうきんは、広いモンゴルの草原そうげん中に広まりました。そして、ひつじかいたちは、夕方ゆがたになると、よりあつまって、そのうつくしい音おとに耳みみをすまし、一日いちにちのつかれをわすれるのでした。

•音おと

おおつかゆうぞうさんは、外国がいこくで書かかれた「長ながくつ下のピッピ」「小さなスプーンおばさん」などをやくしています。





見通しをもとう



といをもとう

「スーホの白い馬」を読んで、あなたの心につよくのこったのは、どんなことですか。それは、どうしてですか。



もくひょう

お話を読んで、いちばん心をうごかされたことについてつたえ合おう。

- ・とうじょうじんぶつのようすが分かることばに気をつける。
- ・かんじたことと、どのことばや文からそうかんじたかをつたえ合おう。

とらえよう

○このお話は、どんなお話ですか。ばしよととうじょうじんぶつ、おもなできごとをたしかめましょう。

○お話のじゆんに、とうじょうじんぶつのしたことや言ったことをたしかめ、そのときの、じ

1 ことば

つぎのような、じんぶつのようすが分かることばを見つけて、思いうかべましょう。

- ・「にっこにこしながら」(115ページ1行目)
- ・「体中あせびっしり」(117ページ1行目)
- ・「はを食いしばりながら」(124ページ9行目)

など

2 えらんで読みふかめよう

つぎのどれかをえらんで、考えましょう。

- 「スーホ」にとって、「白馬」はどんな馬か。
- 「白馬」は、「スーホ」をどう思っていたか。
- どうして、馬頭琴を作ることにしたのか。
- どうして、馬頭琴の音が、聞く人の心をゆりうごかすのか。

ふかめよう

んぶつのようすをそうぞうしましょう。 ①

○「スーホ」は、どんなことを思いながら馬頭琴を作り、えんそうしたのでしょうか。 ②

○このお話で、いちばん心をうごかされたところとその理由を、ノートに書きましょう。

5

3 話し方のれい 「ことばのたからばこ」 165ページ

わたしが心をうごかされたのは、スーホが、「ぼくの白馬、しなないでくれ。」と言うところです。「ぼくの白馬」という言い方に、からです。

理由 心をうごかされたところ

10

まとめよう

ひろげよう

○書いたことをグループで話し、友だちと自分のかんそうをくらべて、「その考えもいいな。」などと思ったことをつたえ合いましょう。 ③



ふりかえろう

知る 読む つなぐ

じんぶつのようすがよくあらわれていると思ったのは、どんなことばですか。友だちと自分のかんそうで、にっていたところ、ちがったところをあげましょう。読んだお話について、友だちとどんなことを話したいですか。





たいせつ

読んで、かんじたことを  
つたえ合う

○ お話の、どのことばや文からかんそうをもったのかをはっきりさせる。  
○ 友だちのかんそうを聞いて、いろいろなかんじ方や考え方を  
知る。



いかそう

お話を読んだら、かんじた  
ことをつたえたり、友だちの  
かんそうを聞いたりして、楽  
しみましょう。

10

5



この本、読もう

いろいろな国や土地につた  
わるお話やむかし話を読み、  
かんそうをつたえ合いました。

ロバのおうじ



空とぶ船と  
ゆかいな なかま



チンパンジーと  
さかなどろぼう



ランパン



馬

馬馬馬馬馬馬馬馬

馬

北

北北北北北

北

牛

牛牛牛牛牛

牛

走

走走走走走走走

売

売売売売売売売

売

弱

弱弱弱弱弱弱弱

弱



の字ば  
かんひろ  
場

5

1年生でならった  
かん字

主語と述語のつながりに気をつけて、公園のようすを  
書きましょう。

れい

男の子は、竹馬の名人です。

名人

男の子

竹馬

力もち

入る

かけ足

上

青空

女の子

休む





# 楽しかったよ、二年生

二年生も、もうすぐおわりです。たくさん学んだり、あそんだりしましたね。思い出して、話しましょう。



## といをもとう

これまでのがくしゅうをふりかえってみましょう。みんなの前で話すとき、あなたは、どんなことが大切だと思いますか。



## もくひよう

聞いている人に、ないようが分かりやすかったように、はっぴようしよう。

### 1

一年をふりかえって、話すことをきめよう。

学校でとり組んだがくしゅうやぎょうじ、みんなであそんだことなどを思い出しましょう。その中から、とくに思い出にのこっていることを一つえらんで、自分が話したいことについて書き出しましょう。

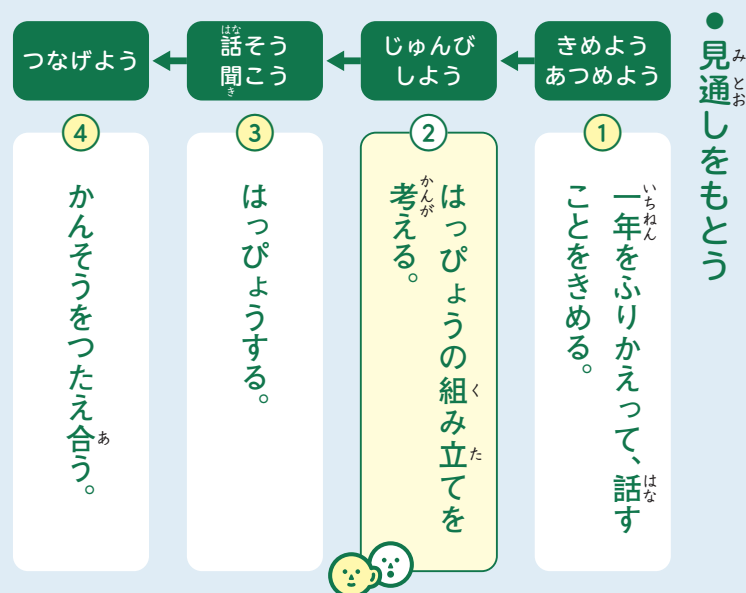
5

ドッジボールで、強いボールがとれるようになったこと	思ったこと	友だちがしたこと、言ったこと
休み時間にみんなであそんだ。	ボールがとれなくて、くやしかった。	こうたさんが、「だきつくようにして、ボールをとるといいよ。」と教えてくれた。
たくさんれんしゅうをした。	こうたさんがやさしかった。	

5

強い

## ●ふりかえろう



## ●たしかめよう

「二年上までに学んだこと」……… 8 ページ

## ② はっぴようの組み立てを考えよう。

つぎのれいを読んで、組み立て方をたしかめましょう。

ぼくは、ドッジボールで強いボールをとれるようになったことが、心にのこっています。

二年生になったばかりのとき、ぼくは、あまりボールがとれませんでした。それを見た、友だちのこうたさんが、「だきつくようにして、ボールをとるといいよ。」と教えてくれました。

それから、なんども、こうたさんとボールをとるれんしゅうをしました。けれども、なかなかボールがとれませんでした。もうあきらめようとしたとき、こうたさんが、「ぜつたいにとれるようになるから、もう少しれんしゅうしよう。」と言ってくれました。その後、またこうたさんとれんしゅうをして、やっとボールをとれるようになりました。

なかなかボールがとれなくてくやしかったけれど、はじめて強いボールがとれたときは、とてもうれしかったです。これで、はっぴようをおわります。

はじめ

中

おわり

## 組み立てを考えるときは

□ はじめ

・何について話すかを言う。

□ 中

・したことや思ったことをくわしく言う。

・できごとのじゅんじよが分かるように言う。

□ おわり

・まとめのこたばを言う。

ほかに、だいじだと思ったことはありますか。

はっぴようのれいを見てください。



## ③ はっぴようしよう。

つぎのことに気をつけて、

はっぴようしましょう。

- ・話すときのしせいや、どこを見て話すか
- ・声の大きさや、話すはやさをどうするか

## ④ かんそうをつたえ合おう。

友だちのはっぴようを聞いて、心にのこった

ことや、よかったところをつたえましょう。

いちばんうれしかったことは、大きな声で、ゆっくり話そう。



たいせつ  
組み立てを考えて、話す

○ つたえたいことを、「はじめ」「中」「おわり」の組み立てで、

じゅんじよよく話す。

○ 聞きとりやすい声の大きさや、話すはやさを考える。



いかそう  
みんなの前で話すときには、話の組み立てを考えましょう。

強強強強強強強強



ふりかえろう

知る

話す・聞く

つなぐ

みんなが聞きとりやすいように、どんな話し方をしましたか。  
分かりやすくつたえるために、どのような組み立てで話しましたか。  
つぎにみんなの前ではっぴようするときには、どんなことに気をつけたいですか。





## 二年生をふりかえって

二年生の国語のがくしゅうで、楽しかった  
ことやがんばったことを書きましょう。

楽しかったこと

がんばったこと



わたしは、お話を書くのが楽しかった。友だちが、「おもしろいね。」って言うてくれたんだ。

ぼくは、音読をがんばった。とうじょうじんぶつのようすを考えながら読んだよ。

『たいせつ』のまとめ 138 ページ



## がくしゅうを広げよう

たしかめよう

- ・ 知りたいことの見つけ方、しらべ方
- ・ ひらがなとかたかな

「たいせつ」のまとめ	138
おちば	
アーノルド・ローベル作 みきたくやく	142
せかい一の話 きたしようにすけ	150
本のせかいを広げよう	156
これまでにあった かん字	158
この本でならう かん字	161
つたえ合うためのことは	163
がくしゅうに用いることは	164
ことばのたからばこ	165
図をつかって考えよう	167



# 「たいせつ」のまとめ

この本でがくしゅうする、大切なことをまとめています。  
 ・たしかめたり、ほかのがくしゅうでつかったりしましょう。  
 ・くうらんには、それぞれのがくしゅうをふりかえってみて、  
 自分が大切だと思ったことを書きましょう。

## 考えを出し合い、話をつなげる

40 ページ

- わだいをたしかめ、自分の考えを言う。
- 友だちの考えと自分の考えの、同じところやちがうところを見つめる。
- 友だちの考えを聞いて思ったことを話したり、しつもんしたりする。

## 組み立てを考えて、話す

135 ページ

- つたえたいことを、「はじめ」「中」「おわり」の組み立てで、じゅんじょよく話す。
- 聞きとりやすい声の大きさや、話すはやさを考える。



## 二年上

### だいじなことをおとさずに聞く

- 聞いておくとよいことはなにかを考えながら聞く。
- 聞いたことの中から、だいじなことをメモする。
- しつもんをして、あいての考えを引き出す

- あいての考えをくわしく聞くために、だいじなことはなにかを考えて、しつもんすることばをえらぶ。
- あいてに正しくつたわるように話す

- なについて話すかを、はじめに言うなど、話すじゅんじょを考え、だいじなことはくわしく言う。



ほかに、だいじだと思ったことはありますか。



## じゅんじょが分かるように書く

50 ページ

- まとまりがはっきり分かるように書く。
- じゅんじょが分かることばをつかって書く。

## 組み立てを考えて、お話を書く

79 ページ

- 「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに分けて考える。
- 「中」には、だれが、何をしたかがよく分かるように、できごとのようすをくわしく書く。

## 書いたもののよいところを見つける

103 ページ

- つぎのようなことから、さくひんのよさを見つける。
- ・ ないようや、つかっていることばのおもしろいところ
- ・ ようすや気もちがよくつたわることば

## 思いが伝わるように書く

110 ページ

- ないようのまとまりに気をつけて、つたえたいことをはっきり書く。
- あいてのどんなところについて、自分がどう思ったのかを、分かりやすく書く。

## 二年上

### 日記に書くこと

- したこと ○ 見たこと、見つけたもの
- 言ったこと、きいたこと ○ 思ったこと
- かんさつしたことを書く

- 見たり、さわったり、においをかいだりして、ていねいにかんさつし、ようすやうごきをくわしく書く。

### 組み立てを考えて書く

- なにかを知らせる文しよは、つぎのように組み立てる。
- ・ はじめ——知らせたいこと
- ・ 中——知らせたいことの、くわしいせつめい
- ・ おわり——まとめのことば

### 書いた文しよを見直す

- 文しよを書いたら、声に出して読むなどして、見直す。
- 丸点かぎや、文字のまちがいがなにかをたしかめる。



ほかに、だいじだと思ったことはありますか。





せつめいする文しよう

だいじなことばや文を見つける

47 ページ

○「まず」「つぎに」など、じゅんじよが分かることばに気をつける。

○しゃんが、どのことばや文をあらわしているかを考える。

読んで、分かったことや思ったことを

つたえ合う

96 ページ

○だいじなことばを見つめながら読んで、はじめて知ったことや、「すごいな。」と思ったことをつたえる。

○友だちの話を聞いて、「いいな。」と思ったことをつたえる。



お話

とうじようじんぶつと自分をくらべて、かんそうをもつ

28 ページ

○じんぶつがしたことをあらわすことばから、ようすを思いうかべる。

○自分だったらどうするか、どう思いうかを考えながら読む。

じんぶつのようすを思いうかべる

72 ページ

○お話の中に出てくるもののようすを思いうかべ、じんぶつのできごととむすびつける。

○じんぶつのようすから、どうしてそのことをしたり言ったりしたのか、その理由などを考える。

読んで、かんじたことをつたえ合う

130 ページ

○お話の、どのことばや文からかんそうをもったのかをはっきりさせる。

○友だちのかんそうを聞いて、いろいろなかんじ方や考え方を

15

10

5

5

二年上 せつめいする文しよう

せつめいする文しようを読む

○だいいいや絵から、その文しようで書かれていることをたしかめる。

○じゅんじよがわかることばや、わけに気をつけて読む。

だいじなじようほうを読みとる

○みの回りには、じようほうのつたえ方をくふうしているものがある。

○ことばや絵などのつかい方に気をつけて、だいいじなことを読みとる。

読んで、じぶんの考えをもつ

○だれがなにをしたのか、どんなことがあったのかを考えながら読む。

○読んで分かったことを、じぶんのことや知っていることくらべて考える。

15

10

5



ほかに、だいいじだと思ったことはありますか。

二年上 お話

どんなおはなしかをたしかめる

○とうじようじんぶつをたしかめる。

○つぎのようなことばを見つめる。

・したことや、言ったことがわかることば

・「いつ」「や」「どこ」がわかることば

お話のようすを思いうかべる

○お話には、いくつかのばめんがある。

○それぞれのばめんでおこったできごとをたしかめる。

○たとえをあらわすことばなどに気をつけて、ばめんやじんぶつのようすを思いうかべる。

10

5



ほかに、だいいじだと思ったことはありますか。

# おちば

アーノルド・ローベル 作・絵

みきたく

やく

▼「がまくん」と「かえるくん」は、それぞれ、何をしましたか。それは、どうしてですか。

▼「お手紙」とくらべて、にているところやちがうところはどこですか。

じゅうがつ  
十月。

木のははみんなちってしまい、じめんにつもりました。

「ぼく、がまくんちへ行こうつと。にわのしばふのおちばを、

かきあつめてあげよう。がまくん、おどろくだろうなあ。」

と、かえるくんが言いました。

かえるくんは、ものおきからくまでをとり出しました。







がまくんは、まどから顔を出しました。  
 「どこもおちばだらけだよ。」  
 と、がまくんは言<sup>い</sup>って、もの入<sup>い</sup>れからくま  
 でをとり出<sup>だ</sup>しました。

「ぼく、かえるくんちへ行<sup>い</sup>こう。おちばを  
 かきあつめてやるんだ。かえるくん、と  
 てもよろこぶだろうなあ。」

かえるくんは、森<sup>もり</sup>をかけていったので、  
 がまくんと会<sup>あ</sup>いませんでした。

がまくんは、ふかい草原<sup>くさはら</sup>をかけていった

ので、かえるくんと会<sup>あ</sup>いませんでした。

かえるくんは、がまくんのうちにつきました。  
 まどからのぞきこみました。

「ようし。がまくん、いないぞ。だれがおちば  
 かきしたか、ぜったいに分<sup>わ</sup>からないよ。」

と言<sup>い</sup>いました。

がまくんは、かえるくんのうちにつきました。  
 まどからのぞきこみました。

「ようし。かえるくん、いないぞ。だれがおち  
 ばかきしたか、ぜったいに当<sup>あ</sup>てられないよ。」







と言いました。

かえるくんは、一心にはたらきました。おちばをかきあつめて、山にしました。

じきに、がまくんのしばふは、きれいになりました。

かえるくんは、くまでをひろい上げて、うちへ帰りました。

がまくんも、えんやこらはたらしきました。おちばをかきあつめて、山



にしました。

じきに、かえるくんの前にわには、一まいのおちばもなくなりました。

がまくんは、くまでをもって、うちへ帰りました。

風です。

じめんをふきまくりました。

かえるくんの作ったはっぱの山は、風にまい、ちりぢりになってしまいました。

がまくんの作ったはっぱの山は、



風<sup>かぜ</sup>にまい、ちりぢりになってしまいました。

うちに帰<sup>かえ</sup>ったかえるくんは、言<sup>い</sup>いました。

「ぼくんちのしばふ、はっぱだらけだなあ。あしたは、ぼくんちのおちばかきをするよ。それにしても、がまくん、びっくりしているだろうなあ。」

うちに帰<sup>かえ</sup>ったがまくんは、言<sup>い</sup>いま

した。

「ぼくんちのはっぱのちらかったにわ、あしたはなんとかして、すっかりきれいにするよ。それにしても、きつとかえるくん、びっくりしているだろうなあ。」

そのばん、明<sup>あ</sup>かりをけして、それがおふとん<sup>はい</sup>に入ったとき、かえるくんもがまくんも、しあわせでした。

10

5



10

5





「聞いて楽しもう」(54ページ)で読んでも  
 ったお話です。ほかに、どのような楽しみ  
 方があるでしょう。

# せかい一の話

きたしろうすけ 文

むかあしむかし、津軽の国の、  
 ②はっこうださん  
 八甲田山のてっぺんに、  
 (大きい)  
 でっかいわしがすんでたと。  
 バホラと一ぺんはばたけば、

まるで大風ふいたよう。  
 やま たいぼく  
 山の太木はねもとから、  
 ボツキボツキとおれとぶし、  
 たにがわ みず  
 谷川の水はさかさまに、

上へながれていくんだと。

「せかいは広いと聞けれど、  
 でっかいことなら、おいらが一番。  
 これからたびに出かけて行って、  
 みんなにいはってやるべかな。」  
 でっかいわしは、のび上がり、  
 ながあい羽をゆさぶって、  
 バホラバホラ、バホラバホラと、  
 ひがし うみ  
 東の海へとんでった。

いちにち なん ③り  
 一日とんで何百里、  
 あか ゆう ひ  
 赤い夕日のしずむ海。  
 「さすがに、すこしくたびれた。」

もういちど、だれかに  
 読んでもらいたいな。

自分で読んで  
 みようかな。

こんどは、だれかに  
 読んであげたいな。

どっかに止まり木、ないものか。」

すると、むこうの雲の上、  
 によつきりつき出た太いえだ。  
 「やあやあ、いい木が見つかっただぞ。  
 せかい一でっかいおれさまは、  
 止まり木さがすも楽でねえ。」  
 わしは、その木にバホラと止まり、  
 その夜はぐっすりねむったと。

やがて明けゆく東の空、  
 あさ ひ  
 朝日をあびた大わしは、  
 「きょうこそ、でっかいおれさまを、  
 だれかに見せて、いはってやるべ。」  
 バホラバホラとどび立った。





いちにち 一日とんで 何百里、

きょうもくれゆく雲の上、  
によつきりつき出た太いえだ。

「やあやあ、今夜もありがたい。」

どさつとえだにまい下りて、

さて、ねむるべと思つたら、

雲の下から声がした。

「だれじやい、ゆんべは右のひげ、

今夜は左のひげの先、

もそろもそらとこそばゆい。

いったい、どこの何やつだ。」

大わし、びっくらどってんして、

よくよく見つめた雲の下。

えだだと思つた止まり木は、

ザブランザブランしぶきを立てて、

東の海へおよいでいった。

さてさて、それから何千里、

赤くそまつた日ぐれの海で、

ザブラン、でかえび、思うには、

「おいらも、すこうしねむたくなつた。

どっかに、ほらあな、ないものか。」

はるかむこうの海の上、

ぴよっこりつき出た黒いしま。

しまには、ふかあいほらのあな。

「やあ、いいあなが見つかった。

今夜はここにとまるべえ。」

でっかいでっかいでかえびの、

太くてながあいひげだった。

大わし、首をうなだれて、

「今の今まで、このわたし、

せかいでいちばんでっかいと、

いばつてとんできましたが、

お前さまにはかないません。

きょうから、あなたがせかい一。」

すると、でかえび、うれしがり、

ながあいひげをびっくびっくさせて、

「そんなにおらがでっかいか。

そんなら、きょうから、お前にかわり、

せかいめぐりに出かけてみるか。」

でかえび、一かき何百里。

つぎの日、またまた何千里、

しぶきを立てて、でかえびが、

ザブランザブランおよいでいくと、

赤いタやけ、なみの上、

またまた、ぴよっこり黒いしま。

しまには、ふかあいほらのあな。

でかえび、ガサガサもぐっていくと、

あなの外から声がした。

「ゆんべは右のはなのあな、

今夜は左のはなのあな、

ごちよらごちよらとくすぐるやつは、

いったい、どこのどいつだい。」

びっくりぎょうてん、でかえびが、

外へとび出て、よくよく見ると、

黒く<sup>くろ</sup>てふかあい ほらあなは、  
でっかい<sup>うみ</sup>でっかい海がめの、  
はなのあなであつたとき。

さすが<sup>さ</sup>のでかえび、ちぢこまり、

「お見<sup>み</sup>それしました、海<sup>うみ</sup>がめさま。

八甲田山<sup>はっこうださん</sup>の大<sup>おお</sup>わしに

かわつて<sup>で</sup>たびに出<sup>で</sup>ましたが、

お前<sup>まえ</sup>さまにはかないません。

きょうから、あなたがせかい<sup>いち</sup>一<sup>いち</sup>。

海<sup>うみ</sup>がめ、まなこをぱちくりさせて、

「とんでもないこと、とんでもない、

おいらがせかいで一番<sup>いちばん</sup>なんて。

よっく見<sup>み</sup>なされ、足元<sup>あしもと</sup>を。

いばつていたのがな<sup>な</sup>さけない。  
せかいの広<sup>ひろ</sup>さ、でっかさを、  
八甲田山<sup>はっこうださん</sup>の大<sup>おお</sup>わしにも、

知<sup>し</sup>らせてやらにやなるまいて。」

そして、でかえび、夕日<sup>ゆうひ</sup>をあびて、

ザブランザブランもと来<sup>き</sup>た方<sup>ほう</sup>へ、

ザブランザブラン小さ<sup>ちい</sup>くなって、

ザブランザブラン帰<sup>かえ</sup>っていった。

ザブランザブラン帰<sup>かえ</sup>っていった。

おいらののつてる、このしまを。  
これは、くじらのせな<sup>せな</sup>かだが、  
生<sup>う</sup>まれて間<sup>ま</sup>もない赤<sup>あか</sup>んぼう。  
親<sup>おや</sup>のくじらは何<sup>なん</sup>十<sup>じゅう</sup>ばい。  
その親<sup>おや</sup>だつて、しおふきの、  
なかまのうちでは小<sup>ちい</sup>さいほう。」

聞<sup>き</sup>いておどろき、見<sup>み</sup>てあきれ、  
でかえび、ひげを下<sup>した</sup>にたれ、

「せかいってひろ<sup>ひろ</sup>ういもんだなあ、

上<sup>うへ</sup>には上<sup>うへ</sup>があるもんだ。

今<sup>いま</sup>の今<sup>いま</sup>まで、おいらほど

でっかいものはいないべと、

思<sup>おも</sup>つていたのがはずかしい。

#### ① 津<sup>つ</sup>軽<sup>がる</sup>

青森<sup>あおもり</sup>県<sup>けん</sup>の西<sup>にし</sup>の方<sup>ほう</sup>のよび名<sup>な</sup>。

#### ② 八甲田山<sup>はっこうださん</sup>

青森<sup>あおもり</sup>県<sup>けん</sup>の中央<sup>ちゅうおう</sup>部<sup>ぶ</sup>にある火<sup>か</sup>山<sup>ざん</sup>群<sup>ぐん</sup>。  
こ<sup>こ</sup>では、高<sup>たか</sup>さ一<sup>いち</sup>五<sup>ご</sup>八<sup>はち</sup>五<sup>ご</sup>メー<sup>メートル</sup>トルの  
大<sup>おお</sup>岳<sup>たけ</sup>のこと。

#### ③ 里<sup>り</sup>

道<sup>みち</sup>のりをあらわす、むかしのたん  
い。一<sup>いち</sup>里<sup>り</sup>は、やく四<sup>よん</sup>千<sup>せん</sup>メー<sup>メートル</sup>トル。

#### ④ しおふき

くじらのこと。

きたし<sup>きたし</sup>ようすけ<sup>さん</sup>は、「なんげえ  
はなし<sup>はなし</sup>っこしか<sup>か</sup>へがな」などのお話<sup>はなし</sup>も  
書<sup>か</sup>いています。



# 本のせかいを 広げよう



読み終わった本には、  
□ にしるしをつけましょう。

## お話・絵本

### □ きりんのまいにち



にのみや ゆきこ 作  
おおの やよい 絵  
海へ出かけたリ、さか  
立ちのけいこをしたり。  
友だちといっしょに、い  
ろんなことを楽しんで  
る、きりんのお話です。

### □ クマと森のピアノ



デイビッド・リッチフィールド 作  
たわら まちやく  
森の中でへんてこなも  
のを見つけた、こぐまの  
ブラウン。さわる、こ  
れまでに聞いたことな  
い音がしました。

### □ ぼくは王さま



てらむらてるお 作  
わだ まこと 絵  
たまごやきが大きい。  
ちよつとわがままで、い  
ちどき言いだしたら聞か  
ない。でも、ゆかいでやさ  
しい、王さまのお話です。

### □ 番ねずみの ヤカちゃん



リチャード・ウィルバー 作  
まつおか きょうこ やく  
おおこそ れいこ 絵  
人間に気づかれないよ  
うにくらす、ねずみのか  
ぞく。でも、すえの子ね  
ずみのヤカちゃんの声が、  
大きくて――。

### □ さつちゃんの まほうのて



さつちゃんの手は、お  
とうさんやおかあさんと  
少しちがいます。でも、  
おとうさんは、「まほう  
の手だね。」と言います。

### □ てぶくろが いっぱい



フロレンス・スロボドキン 文  
ルイス・スロボドキン 絵  
みはら いずみやく  
ネットとドニーはふた  
ご。ドニーが手ぶくろを  
なくしたら、町中の人  
がおしもの手ぶくろを  
とどけてくれました。

### □ かたあしだちようのエルフ



おのき がく 文・絵  
強く、大きなだちよ  
うのエルフ。どうぶつ  
の子たちは、エルフのせ  
なかにのってドライブす  
るのが、大好きでした。

### □ ドーナツの あなのはなし



パトリック・文  
ヴァンセント・X・キルシュ 絵  
かねはら みずひとやく  
あまくて、おいしい  
ドーナツ。ドーナツのあ  
なは、だれが、どうして  
はつめいたのか、知っ  
ていますか。

## しぜん・ちしき

### □ ふゆめ がつしょうだん



とみなり ただお  
もぎとおる しやしん  
ちようしんた 文  
冬の木のめをじっくり  
見てみると、どうぶつや  
人の顔に見えてきます。  
何の顔にしているでし  
うか。

### □ もしも宇宙でくらしたら



やまもと しょうぞう  
いつか、宇宙でくらす  
日が来るかもしれません。  
小学生のひかるから、宇  
宙でくらしについて、  
教わりましょう。

### □ わたしがかわる みらいもかわる



はらこの 作  
MAKO オケスタジオ 絵  
やまだ もとやす かんしゅう  
今もこれから、より  
よくちきゅうでくらすた  
めに、わたしたちは何を  
すればよいのか、せかい  
の人びとと考えました。

### □ いろいろな からだのほん



メアリー・ホフマン 文  
ロス・アスワイス 絵  
すぎもと えみやく  
赤ちゃんから子ども、  
おとなへと、どんなせ  
いようする体。自分た  
ちの体について、考えを  
ふかめられる本です。

### □ きみはどこから やってきた?



フリップ・バンティング 作  
ないとう ふみこやく  
きたやま たいじゆ かんしゅう  
すべてのものは、「う  
ちゅうのたね」がばくは  
つして、できました。こ  
れは、あなたが生まれる  
までのものがたりです。

### □ 山の子 テンちゃん



さわ みずえ  
山寺のてんじようから、  
小さな、テンの赤ちゃん  
がおちてきました。ひづ  
るさんは、テンのおかあ  
さんになりました。

## 詩・ことば

### □ さかさことばでうんどうかい



にしむらとしお 作  
どうぶつたちが、さか  
さことばのうんどう会を  
はじめました。「ぞうく  
んくうぞ」。何のきよう  
ぎをしているのでしょう。

### □ 漢字はうたう



すぎもと みゆき 詩  
よしだ ひさのり 絵  
漢字をばらばらにした  
り、漢字をながめてそ  
うしうたりして聞こえて  
きた、漢字のうたをあ  
つめた本です。

### □ はが ぬけたら どうするの?



セルビー・ビラー 文  
ブライアン・カラス 絵  
こだま ともこやく  
あなたは、はがぬけた  
ら、そのはをどうしてい  
ますか。せかいの子ど  
もたちの、ぬけたはのお  
話です。

# これまでにならった かん字

ならった読み方で、あいうえおじゅんにならべてあります。  
 △は、これからならう読み方。( ) は、小学校ではならわな読み方。

月 ④ がつ	毛 ④ け	黒 ⑪ くろ	来 ⑦ くる	雲 ⑫ くも	組 ⑪ くみ	口 ③ くち	草 ⑨ くさ	金 ⑧ きん	行 ⑥ ぎよう
国 ⑧ こく	校 ⑩ こう	公 ④ こう	工 ③ こう	語 ⑭ ご	後 ⑨ ご	午 ④ ご	五 ④ ご	子 ③ こ	元 ④ げん
車 ⑦ くるま	社 ⑦ しゃ	七 ② しち	下 ③ した	字 ⑥ じ	四 ⑤ よ	算 ⑭ さん	三 ③ さん	魚 ⑪ さかな	
数 ⑬ かず	水 ④ みず	人 ② にん	白 ⑤ しろ	知 ⑧ ち	正 ⑤ しょう	小 ③ しょう	書 ⑩ しょ	十 ② じゅう	
足 ⑦ あし	前 ⑨ まえ	線 ⑮ せん	先 ⑥ せん	千 ③ せん	切 ④ き	声 ⑦ せい	生 ⑤ せい		
立 ⑤ たち	竹 ⑥ たけ	高 ⑩ たかい	大 ③ だい	体 ⑦ たい	田 ⑤ でん	空 ⑧ から	外 ⑤ がい		
出 ⑤ で	手 ④ て	長 ⑧ ちよう	町 ⑦ まち	虫 ⑥ むし	中 ④ ちゅう	父 ④ ちち	力 ② ちから	近 ⑦ ちかい	玉 ⑤ たま
									食 ⑨ たべる

新 ⑬ あたらしい	頭 ⑯ あたま	朝 ⑫ あさ	赤 ⑦ あか	青 ⑧ あお	花 ⑦ はな	一 ① いち	石 ⑤ いし	池 ⑥ いけ	家 ⑩ いえ
言 ⑦ げん	雨 ⑧ あめ	姉 ⑧ あね	兄 ⑤ あに	当 ⑥ あたる		上 ③ うへ	岩 ⑧ いわ	色 ⑥ いろ	入 ② いる
妹 ⑧ いもうと	今 ④ いま	犬 ④ いぬ	糸 ⑥ いと			男 ⑦ おとこ	弟 ⑦ おとうと	多 ⑥ おおい	王 ④ おう
遠 ⑬ えん	園 ⑬ えん	円 ④ えん	絵 ⑫ え	海 ⑨ うみ	歌 ⑭ うた	同 ⑥ どう	男 ⑦ なん	弟 ⑦ てい	多 ⑥ た
会 ⑥ かい	回 ⑥ かい	科 ⑨ か	花 ⑦ はな	火 ④ ひ	女 ③ おんな	音 ⑨ おん	親 ⑯ おや	思 ⑨ おも	
紙 ⑩ かみ	活 ⑨ かつ	刀 ② かた	形 ⑦ かたち	風 ⑨ かせ	楽 ⑬ がく	学 ⑧ がく	顔 ⑯ がん	買 ⑫ かう	貝 ⑦ かい
教 ⑪ きょう	九 ② きゅう	聞 ⑭ きこ	黄 ⑪ おう	記 ⑩ き	汽 ⑦ き	気 ⑥ け	考 ⑥ かん	川 ③ かわ	



[illegible]

この本ほんでならう  
かん字じ

読み方は、この本でならうもの。

内 □ <sub>2</sub> ④ △ない (だい)	鳥 □ <sub>2</sub> ⑪ △ちよう う	友 □ <sub>2</sub> ④ △とも う	読 □ <sub>2</sub> ⑭ △どく よく △とく よむ	通 □ <sub>2</sub> ⑩ △とおす 「とおす」 △かう う	土 □ <sub>1</sub> ③ △どち ち	図 □ <sub>2</sub> ⑦ △ずと (はかる)	電 □ <sub>2</sub> ⑬ でん	点 □ <sub>2</sub> ⑨ てん	店 □ <sub>2</sub> ⑧ みせん	天 □ <sub>1</sub> ④ △あめん (あめ)
早 □ <sub>1</sub> ⑥ △はやい 「はやい」 △はやめる はやめる	母 □ <sub>2</sub> ⑤ △はは ぼ	羽 □ <sub>2</sub> ⑥ △はね (う)	八 □ <sub>1</sub> ② △はち やちや やちや	年 □ <sub>1</sub> ⑥ としねん	日 □ <sub>1</sub> ④ △ひ ひに	肉 □ <sub>2</sub> ⑥ にく	二 □ <sub>1</sub> ② △ふた 「ふた」 ふた	夏 □ <sub>2</sub> ⑩ △なつ (げ)	夏 □ <sub>2</sub> ⑩ △なつ 「なつ」 なつ	直 □ <sub>2</sub> ⑧ △なおす 「なおす」 △ちよく 「ちよく」 △ただちに 「ただちに」
太 □ <sub>2</sub> ④ △ふとい 「ふとい」 たい	広 □ <sub>2</sub> ⑤ △ひろ ひろひろ ひろひろ	昼 □ <sub>2</sub> ⑨ △ひる ちゅう	百 □ <sub>1</sub> ⑥ ひゃく	左 □ <sub>1</sub> ⑤ △ひだり さ	引 □ <sub>2</sub> ④ △ひく 「ひく」 いん	光 □ <sub>2</sub> ⑥ △ひかる 「ひかる」 こう	半 □ <sub>2</sub> ⑤ △はん なか	晴 □ <sub>2</sub> ⑫ △はれる 「はれる」 せい	春 □ <sub>2</sub> ⑨ はる	林 □ <sub>1</sub> ⑧ △はやし りん
見 □ <sub>1</sub> ⑦ △みる 「みる」 けん	耳 □ <sub>1</sub> ⑥ △みみ (じ)	南 □ <sub>2</sub> ⑨ △みなみ (なん)	右 □ <sub>1</sub> ⑤ △みぎ ゆう	万 □ <sub>2</sub> ③ △まん (ばん)	丸 □ <sub>2</sub> ③ △まる 「まる」 がん	毎 □ <sub>2</sub> ⑥ まい	本 □ <sub>1</sub> ⑤ △ほん もと	方 □ <sub>2</sub> ④ ほう	文 □ <sub>1</sub> ④ △ぶん 「ぶん」 (ふみ)	分 □ <sub>2</sub> ④ △ぶん 「ぶん」 ぶん
夜 □ <sub>2</sub> ⑧ △よる 「よる」 よ	曜 □ <sub>2</sub> ⑬ よう	雪 □ <sub>2</sub> ⑪ △ゆき 「ゆき」 せつ	夕 □ <sub>1</sub> ③ △ゆう (せき)	山 □ <sub>1</sub> ③ △さん やま	休 □ <sub>1</sub> ⑥ △やすむ 「やすむ」 ぎゅう	森 □ <sub>1</sub> ⑫ △もり しん	木 □ <sub>1</sub> ④ △き 「き」 こ	名 □ <sub>1</sub> ⑥ △な 「な」 み	目 □ <sub>1</sub> ⑤ △め 「め」 (ま)	村 □ <sub>1</sub> ⑦ △むら 「むら」 そん
									話 □ <sub>2</sub> ⑬ △わ 「わ」 なし	六 □ <sub>1</sub> ④ △むく 「むく」 むく

紙コップ花火の作り方  
おもちゃの作り方を  
せつめいしよう

少 4画  
すこし  
すくない  
数が少ない  
少年

谷 7画  
たに  
谷川

細 11画  
ほそい  
ほそる  
細い糸  
やせ細る

みきのたからもの

首 9画  
くび  
首をかしげる

鳴 14画  
なく  
なる  
鳴き声  
かねが鳴る  
音を鳴らす

心 4画  
こころ  
心の中

冬 5画  
ふゆ  
冬休み

かたかなで書くことば

戸 4画  
と(ど)  
雨戸

麦 7画  
むぎ  
麦茶

茶 9画  
ちゃ  
麦茶

地 6画  
ち  
土地

市 5画  
いち  
市場

場 12画  
ば  
工場  
市場

ロボット

答 12画  
こたえ  
こたえる  
とくに答える  
答えを書く

歩 8画  
あるく  
道を歩く

カンジーはかせの大はつめい

才 3画  
さい  
天才

門 8画  
もん  
門

弓 3画  
ゆみ  
弓矢

矢 5画  
や  
弓矢

すてきなどころを  
つたえよう

計 9画  
けい  
計算

室 9画  
しつ  
ほけん室

スーホの白い馬

馬 10画  
うま  
白い馬  
けい馬

北 5画  
きた  
北の方

牛 4画  
うし  
牛や馬

走 7画  
はしる  
馬が走る

売 7画  
うる  
売りに来る  
本が売れる

弱 10画  
よわる  
体が弱い  
気が弱い  
風が弱まる  
力を弱める

楽しかったよ、二年生

強 11画  
つよい  
力強い  
風が強まる  
力を強める

答え

主語と述語に 気をつけよう

1 里いもがーおいしい、  
たなかさんはー当番だ、  
兄がーおる、先生がー話す、  
子どもがーもつ、  
星がーきれいだ

かん字の読み方  
1 はえる・うまれる、だす・でる、  
はいる・いれる

カンジーはかせの大はつめい

1 男、岩  
2 日、会  
3 花火、先生、名前、会話、毛糸

# つたえ合うためのことば

かんが 考えをつたえたり、聞いたりするときに、  
つかいましょう。

わかりやすく話す

かんが 考えをつたえる  
• ー ー について話します。  
• まず／つぎに／それから

理由を言う

• どうしてかというと、ー  
からです。

ないようをたしかめる

うけて かえす  
• ー ー ということですね。  
• それは、ー ですか。

友だちの考えとくらべる

• ー ー さんと同じで、ー。  
• ー ー さんとちがって、ー。

わだいをたしかめる

あ 話し合いを  
すすめる  
• きょうは、ー ー について  
話し合います。

きまったことをたしかめる

• ー ー になりました。  
• ー ー にきまりました。

● よりよいほうほうを  
かんが 考えるときのことば

• ー ー のために、すると  
よいことが、三つあり  
ます。  
• はじめに、計画を立て  
ませんか。  
• どこがよくなかったの  
でしょうか。







# がくしゅうに用いることば

国語のがくしゅうで、よくつかわれることばです。  
 いみをたしかめて、がくしゅうにいかしましょう。

## わだい

話したり話し合ったりするときのざいりや、中心となることからのことです。

37 ページ

わだいから外れないように話すと、聞く人も、何をたえたかがよく分かります。

## あらすじ

お話をみじかくまとめたものです。とうじょうじんぶつがしたことや、できごとを、お話のじゆんにみじかくまとめたつなげると、あらすじになります。

70 ページ

お話を人にしようかいるときには、あらすじをつたえると、そのお話をぜんぶ読まなくても、だいたいどのようなかが分かります。

## 二年上で学んだことば

### とうじょうじんぶつ (じんぶつ)

お話の中に出てくる人のことです。お話の中で、人のようにうごいたり、考えたりする生きものやものも、とうじょうじんぶつ (じんぶつ) といいます。

30 ページ

### メモ

聞いたことや考えたことなどを、後でたしかめられるように書きとめることです。また、書きとめたものも、メモといいます。

42 ページ

## ばめん

お話の中にある、いくつかのまとまりのことです。時間やばしよ、とうじょうじんぶつのしたことなどで、ひとまとまりになっていることが多いです。

78 ページ

## 組み立て

文しよや話が、どのようなまとまりとじゆんじよでできているかということです。「はじめ」「中」「おわり」という三つのまとまりで考えると、分かりやすくなることが多いです。

85 ページ

## しつもん

分からないことや知りたいこと、たしかめたいことなどを、人にきくことです。しつもんをするときは、あいての話をよく聞いて、かんけいのあることをたずねるようにします。

91 ページ

## ひつしや

文しよを書いた人のことです。お話や詩などを作った人である「さくしや」とくべつして、せつめいする文しよを書いた人をひつしやということがあります。

132 ページ

## 一年生で学んだことば

- だいいめい
- さくしや
- やくしや





# ことばのたからばこ

お話<sup>はなし</sup>に出てくるじんぶつについてせつめいするとき  
や、思<sup>おも</sup>ったことをつたえるときに、つかいましょう。



じんぶつを  
あらわすことば



もののようすを  
あらわすことば

一生<sup>いっしょう</sup>けんめい

おだやか

親切<sup>しんせつ</sup>

思<sup>おも</sup>いやりのある

おこりっぽい

きびしい

がまん強<sup>つよ</sup>い

こつこつ

いじわる

わがまま

目<sup>め</sup>立つ

どっしりした

きゆうくつ

べんり

やく立<sup>だ</sup>つ

さわがしい

にぎやか

りっぱ

すばらしい

せつせと

あつというま

なめらか

しっとり

かわいらしい

にあらう



気<sup>き</sup>もちをあらわすことば

じまん

あんしん

ほっとする

ふあん

しんぱい

ひやひやする

へいき

おびえる

おそろしい

たいくつ

あきる

じしんがある

本<sup>ほん</sup>気<sup>き</sup>

くたびれる

つかれる

はんせい

あわてる

あせる

はらはらする

おちつく

うっとり

にたいみのことば、はん  
たいのいみのことばを見  
つけよう

ここにあることばで、組<sup>ぐみ</sup>  
作<sup>つく</sup>ってみましょう。

〈れい〉

・にたいみ

・はんたいの  
いみ

あんしん

—

ほっとする

あんしん

↔

ふあん

組<sup>ぐみ</sup>にできることばがほかに  
ないか、さがしましょう。見<sup>み</sup>  
つけたことばの組<sup>ぐみ</sup>を、友<sup>とも</sup>だち  
と教<sup>おし</sup>え合<sup>あ</sup>っていいですね。

これまで<sup>まな</sup>に学<sup>まな</sup>んだ  
ことばを見<sup>み</sup>る。



あたら  
しく知<sup>し</sup>ったことばを  
書<sup>か</sup>き足<sup>た</sup>してもいいね。





## 図をつかって考えよう

### じゅんじょ

書き出してならべると、  
じゅんじょを考えやすくなります。

#### ○じゅんじょを考えて、ならべる

町たんけんで行った花やさんのこと

いろいろな花がならんでいた。

ゆりの花が、とくにきれいだった。

お店の人の話  
「花を見ると、元気になる。」

#### ○じゅんじょをあらわすことば

- まず、――。
- さいしよに――。
- つぎに、――。
- それから、――。
- そして、――。
- さいごに、――。
- はじめに、――。

花やさんで、はじめに、いろいろな花がならんでいるのを見ました。ゆりの花が、とくにきれいだと思いました。そして、お店の人に話をきいたら、――。



せいりしたことを、分かりやすくつたえましょう。

### 同じところ、

### ちがうところ

ひょうにすると、同じところとちがうところが、くらべやすくなります。

#### ○ひょうにして、くらべる

ミニトマトのかんさつ

おおきさ	かず数	いろ色	ろくがつみつか
ニセンチ	十こ	みどり色	六月三日
三センチ	十五こ	みどり色	六月十八日

#### ○くらべたことをあらわすことば

- ――とは、――が同じです。
- 同じところは、――。
- どちらも、――。
- ――とは、――がちがいます。
- ちがうところは、――。

ろくがつみつか  
六月三日と、ろくがつじゅうはちにち  
六月十八日のミニトマトのようすをくらべました。色はどちらも同じですが、数と大きさはちがいます。――

